

被災・避難状況と今後の子ども支援・子育て支援に関するニーズ把握調査

【速報版】

- 調査期間:2025年2月1日～3月2日まで
- 回答数:566件
- Google フォームの説明資料

本調査は、ワンネススクールが金沢大学の協力のもと、「こどもの居場所づくり支援をより豊かにするための事業」として実施するものであり、昨年春に実施させていただいたアンケートに続くものです。

今回は、小中学生の子どもたちとその保護者の方を対象に、被災・避難状況と今後の生活に関する項目と、この間に利用した居場所の経験、そして現在の子どもたちの心境などについてお聞きします。そのため、回答にあたっては保護者1名とお子さんを1名のペアでご回答ください。もし複数のお子さんがいらっしゃる場合には一番年齢が上のお子さん(小中学生のみ)を対象としてください。

震災から1年が経過した今だからこそ、私たちに何ができるのか、みなさんの想いとニーズを聴きとることで、今後も子どもたちや保護者の皆様により沿ったケアを行っていきたいと考えています。少しでも多くの方にご協力いただけますと幸いです。

なお、アンケートにご協力いただく際には、ご無理のない範囲でお願いいたします。回答している際に体調が悪くなったり、続けることが困難になった場合には、その場で終了していただいて大丈夫です。また、本アンケートの結果は、個人が特定されない形式で整理し報告書としてこども家庭庁に報告します。さらに、HPへの掲載やマスコミ等への公表を通じて、県や市町担当課、各種支援団体と共有し支援の充実を目指します。復旧・復興に向けてお忙しいところ大変恐縮ではありますが、是非ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

アンケートは大きく4つのパートに分かれています。以下、簡単に内容と注意点を説明します¹。

(I)F1～F6

調査協力をいただく保護者の方とお子さん、またそのご家族に関するものですので、みなさんにお答えいただきたい内容です。

(II)Q1～Q5

被災状況と子育て環境に関する質問群になります。ここでは、選択する回答によってその後お尋ねする内容が変わります。現状に基づいて状況や心境を教えてくださいと幸いです。

(III)Q6

震災後に居場所を利用した経験についてお聞きします。一度でも利用したことがある場合は、Q6につづく質問(Q6-1からQ6-6)にお答えください。また、Q6-5(☆)は、居場所を利用したお子さんにお答えいただきたい内容になります。必ずお子さんに確認をしてから回答してください。

(IV)Q7～Q12

現在のお子さんの心境についてお聞きしたい質問群になります。小学4年生以上を対象とした質問になりますので、該当する場合、お子さんに無理のない範囲でご協力をいただければ幸いです。なお小学生の場合、一人では回答しにくいものもあるかもしれませんので、その場合は、お手数ですが保護者の方が付き添って回答していただくと幸いです。

¹ なお、アンケート項目は、東洋大学福祉社会開発研究センターが、2024年11月に実施したWEB調査の質問項目を参照した。同様の項目を使用した部分もあるが、能登半島地震での状況に合わせて適宜変更を加えている。

I 調査協力者について(N=566)

F1.回答者の性別

- 表1の通り、本アンケートへの回答者の8割以上は女性であった。

表1

	度数	%
女性	478	84.5
男性	85	15.0
答えたくない	3	0.5
合計	566	100.0

F2. 子どもの性別

- 表2の通り、アンケートに協力いただいた回答者のお子さんの性別は女兒が47.7%、男児が51.2%であり、答えたくないが0.7%、それ以外が0.4%であった。

表2

	度数	%
女兒	270	47.7
男児	290	51.2
答えたくない	4	0.7
それ以外	2	0.4
合計	566	100.0

F3. 子どもの学年(2025年2月調査時点)

- 子どもの学年は、中学1年生が一番多く(13.4%)、中学2年生が一番少ないものの(8.5%)、それぞれ50名以上の回答を得ることができた。

表3

	度数	%
小学1年生	51	9.0
小学2年生	64	11.3
小学3年生	59	10.4
小学4年生	70	12.4
小学5年生	70	12.4
小学6年生	71	12.5
中学1年生	76	13.4
中学2年生	48	8.5
中学3年生	57	10.1
合計	566	100.0

F4. 現在、子どもと一緒に暮らしている家族

- 回答者の子どもと一緒に暮らしている家族は、母親が 96.6%で最も多く、続いて父親(83.9%)、きょうだい(76.9%)となっている。
- 祖父・祖母も2～3割一緒に暮らしており、その他にはおじ・おばなども含まれていた。

表4

	度数	%
母親	547	96.6
父親	475	83.9
きょうだい	435	76.9
祖父	143	25.3
祖母	192	33.9
その他	18	3.2

その他(例)

叔母・伯母、叔父・伯父、曾祖母、曾祖父、犬など

F5. 現在の仕事の有無

- 回答者の9割以上が、「働いている」と回答している。

表5

	度数	%
働いている	513	90.6
働いていない	53	9.4
合計	566	100.0

F6. 発災以前に住んでいた地域

- 回答者が発災前に住んでいた地域で最も多いのは七尾市(43.8%)であり、つづいて、輪島市(20.7%)、珠洲市(12.4%)である。また、最も少ないのは穴水町(4.8%)である。

表6

	度数	%
穴水町	27	4.8
志賀町	37	6.5
七尾市	248	43.8
珠洲市	70	12.4
能登町	67	11.8
輪島市	117	20.7
合計	566	100.0

II 被災状況と子育て環境について

Q1. 被災した災害(N=566)

- 回答者は、「令和6年度能登半島地震のみ」被災している割合が82.2%と最も多い。しかし、9月の奥能登豪雨も含めて被災している回答者も2割弱いる。

表7

	度数	%
令和6年能登半島地震のみ	465	82.2
奥能登豪雨のみ	0	0.0
両方	100	17.7
その他	1	0.2
合計	566	100.0

Q2. 自然災害によって経験したこと(複数回答, N=566)

- 自然災害によって経験したこととして最も多かったのは、「子どもが通っていた学校が避難所になった」と「子どもの学校が被災して2週間以上休校になった」が381件である。子どもに関することでは、「子どもが災害前に通っていた学校とは異なる学校に通うことになった」も113件と相対的に回答が多い。
- 施設や生活に関する経験では、「家屋が一部損壊」が309件と多く、半年未満の避難所利用や、1回以上の転居経験なども多い。

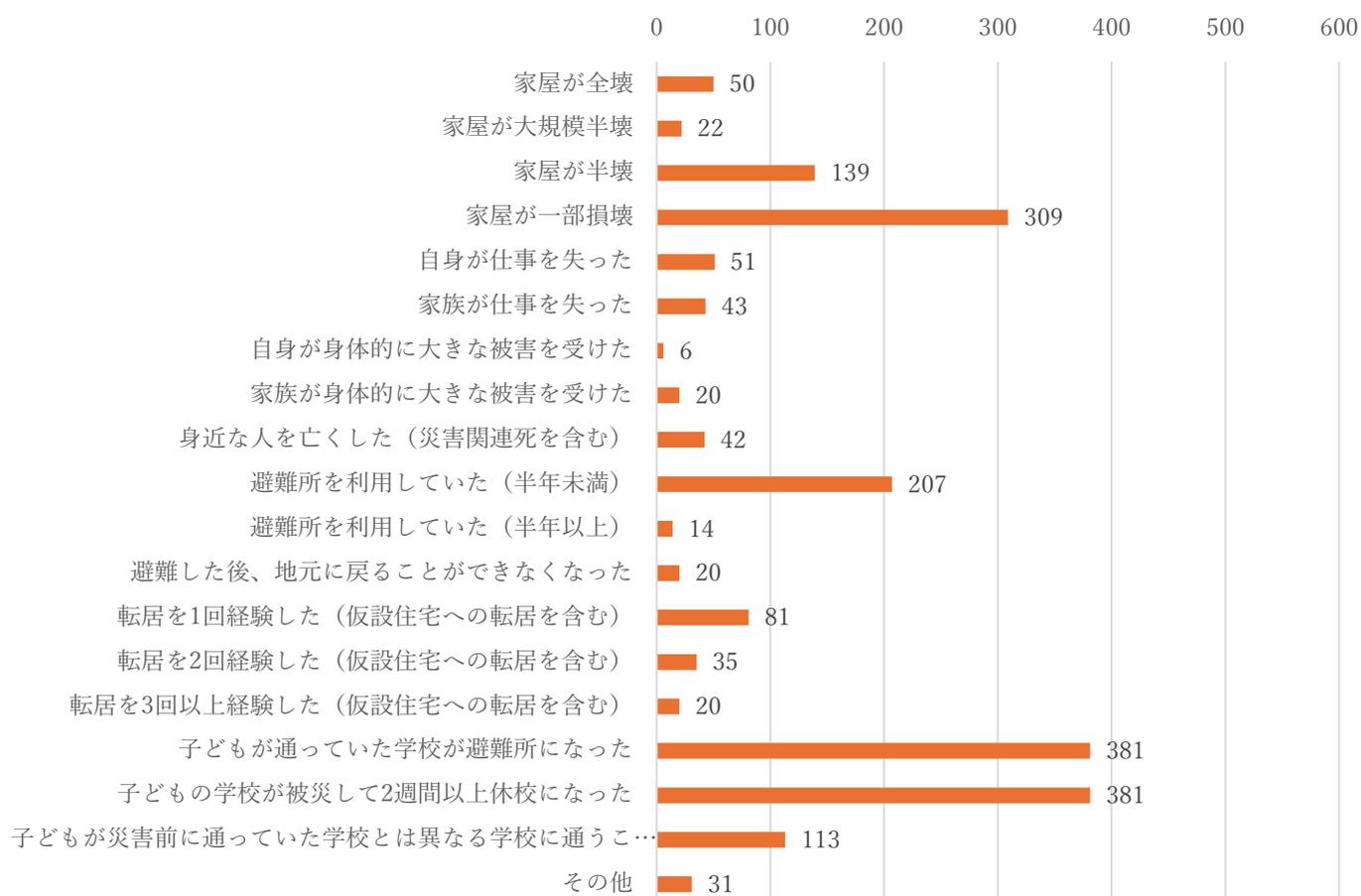


図3

表8

自然災害によって…	度数	%
家屋が全壊	50	9
家屋が大規模半壊	22	4
家屋が半壊	139	25
家屋が一部損壊	309	55
自身が仕事を失った	51	9
家族が仕事を失った	43	8
自身が身体的に大きな被害を受けた	6	1
家族が身体的に大きな被害を受けた	20	4
身近な人を亡くした（災害関連死を含む）	42	7
避難所を利用していた（半年未満）	207	37
避難所を利用していた（半年以上）	14	2
避難した後、地元に戻ることができなくなった	20	4
転居を1回経験した（仮設住宅への転居を含む）	81	14
転居を2回経験した（仮設住宅への転居を含む）	35	6
転居を3回以上経験した（仮設住宅への転居を含む）	20	4
子どもが通っていた学校が避難所になった	381	67
子どもの学校が被災して2週間以上休校になった	381	67
子どもが災害前に通っていた学校とは異なる学校に通うことになった	113	20
その他	31	5

その他(一部抜粋)

- 職場の一角に職員とその家族を滞在させてもらえることとなり、3ヶ月間職場に滞在した(避難所にはいない)子どもはオンライン授業から始まり、同町内の中学校に間借りする形で1学期を終え、2学期から仮設校舎に通学している。
- 2次避難先の学校に通った。
- 家屋が準半壊、1週間の車中泊。
- 系列こども園の水が長期に渡り出なかったため、1か所にて合同保育となった。
- 仕事のため子どもと離れて暮らした。
- 子どもを県外の親戚に疎開させた。
- 子どもを市外で進学させた。
- 私と子どもたちは、私の実家(中能登町)にいたので、10日程家族バラバラに過ごした。
- 自営しているお店がかなり大きな被害にあった。
- 自殺未遂をした。
- 自身と家族の収入が減少した。
- 水害時に土砂で職場から自宅に戻れなくなり、1週間子どもと一緒に親戚宅に住まわせてもらった。
- 断水。仕事を4ヶ月休みになり雇用保険だけでは生活出来ず、貯金を切り崩して生活していた。
- 入学前だったので通っていた保育所は震災で閉所になり1ヶ月は保育所に行けませんでした
- 被災当時は保育園児で保育園が休園。

Q3. 被災した地域での暮らしについて(N=566)

- ▶ 本アンケートでは、被災した地域で今も暮らしている回答者が9割以上である。

表9

現在、被災した地域で…	度数	%
暮らしている	520	91.9
暮らしていない	46	8.1
合計	566	100.0

Q3-1. 地元での暮らしについて(n=520)

- ▶ 今も被災した地域で暮らしている回答者(n=520)のうち、地元で暮らし続けたいかを尋ねたところ、最も多かったのは、「わからない」で47.7%である。つづいて多かったのは「ずっと住み続けたい」で42.5%である。

表10

地元での暮らし	度数	%
ずっと住み続けたい	221	42.5
離れたい	51	9.8
わからない	248	47.7
合計	520	100.0

Q3-1-1. ずっと住み続けたい理由について(複数回答, n=221)

- ▶ 図4の通り、ずっと住み続けたい回答者(n=221)にその理由を尋ねたところ、最も多かったのは、「仕事があるから」で167件、つづいて、「子どもの友だち関係を大切にしたいから」が139件である。
- ▶ 「子どもを転校させたくないから(130件)」や「生まれ育った地域だから(127件)」「あなたの親がいるから(122件)」も相対的に多い。

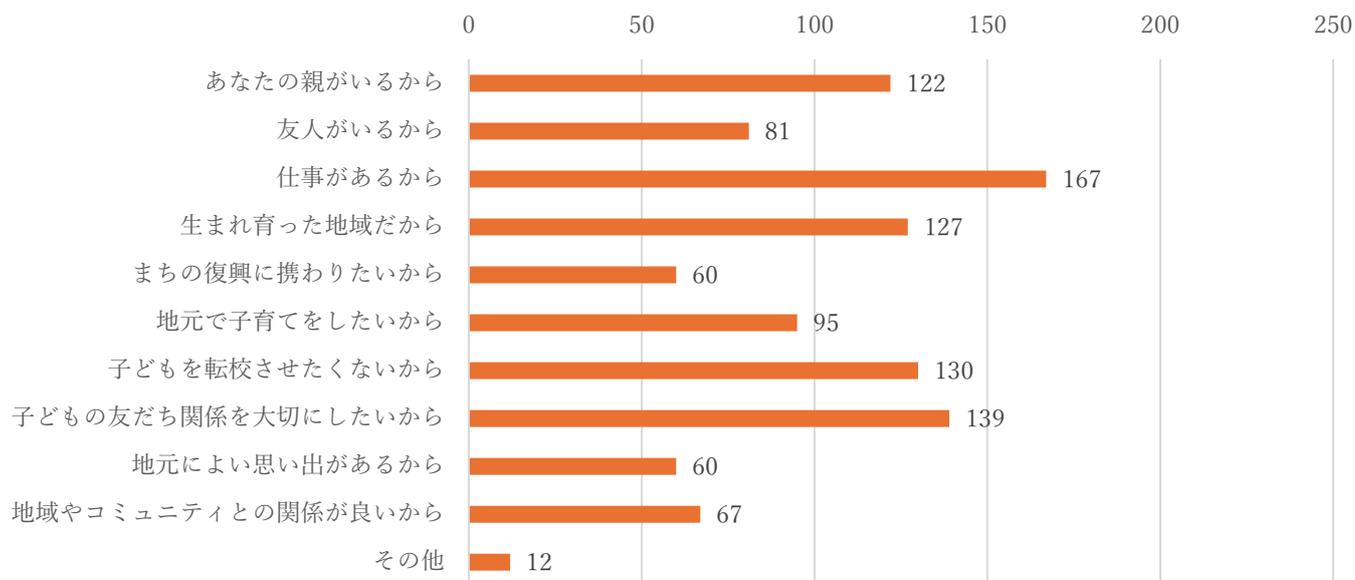


図4

表 11

住み続けたい理由	度数	%
あなたの親がいるから	122	55.2
友人がいるから	81	36.7
仕事があるから	167	75.6
生まれ育った地域だから	127	57.5
まちの復興に携わりたいから	60	27.1
地元で子育てをしたいから	95	43.0
子どもを転校させたくないから	130	58.8
子どもの友だち関係を大切にしたいから	139	62.9
地元によい思い出があるから	60	27.1
地域やコミュニティとの関係が良いから	67	30.3
その他	12	5.4

その他(一部抜粋)

- ここにしかない良さがあるから。
- 家を建ててしまったから。
- 子どもが珠洲にいるときめたから。

Q3-1-2. 離れたい理由について(複数回答, n=51)

- 図5の通り、離れたい回答者(n=51)にその理由を尋ねたところ、最も多かったのは、「子育てがしにくいから」で 35 件、つづいて「子どもの習いごとの環境が少ないから」と「再び災害にあうのが怖いから」が 33 件である。
- 「子どもが安心して学べる環境ではないから(31 件)」や「子どもが思いっきりあそべる環境が少ないから(30 件)」「子どもの成長が心配だから(30 件)」も多い。

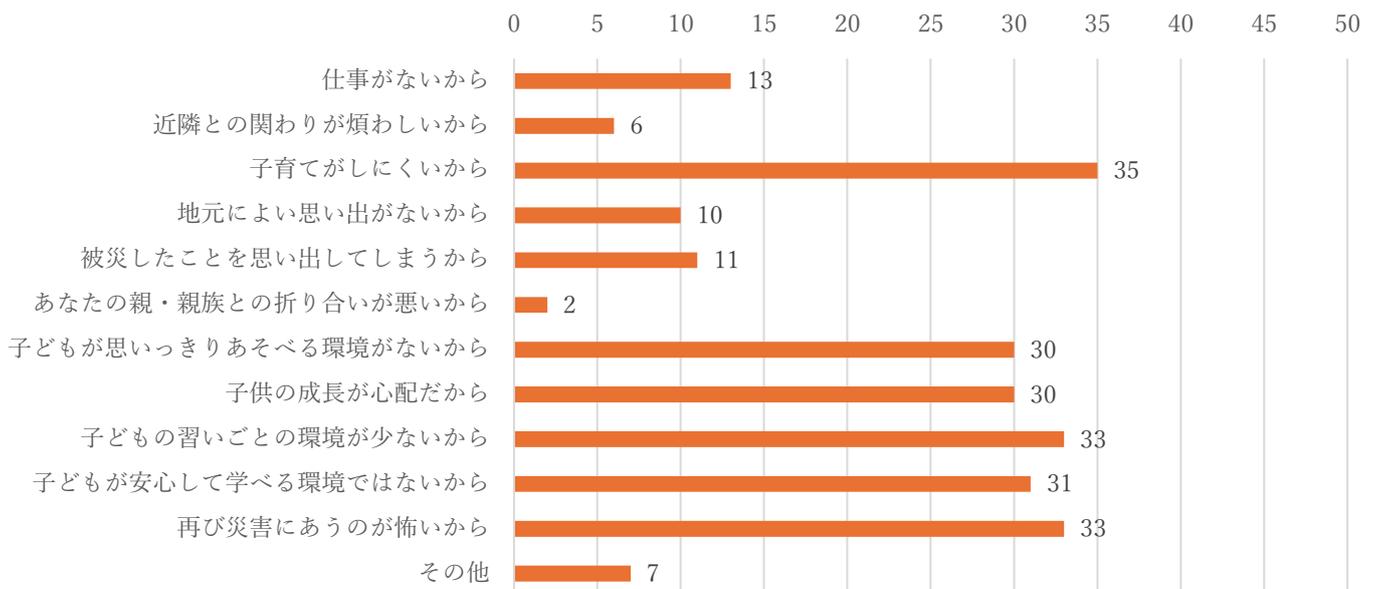


図5

表 12

離れた理由	度数	%
仕事がないから	13	25.5
近隣との関わりが煩わしいから	6	11.8
子育てがしにくいから	35	68.6
地元によい思い出がないから	10	19.6
被災したことを思い出してしまうから	11	21.6
あなたの親・親族との折り合いが悪いから	2	3.9
子どもが思いっきりあそべる環境がないから	30	58.8
子供の成長が心配だから	30	58.8
子どもの習いごとの環境が少ないから	33	64.7
子どもが安心して学べる環境ではないから	31	60.8
再び災害にあうのが怖いから	33	64.7
その他	7	13.7

その他(一部抜粋)

- 高校卒業後の進学する学校がないから。
- 子どもの同級生の減少。
- 震災をきっかけにここに留まる理由がないかもと強く思ってしまった。

Q3-2. 現在住んでいる地域(n=46)

- 現在、被災した地域から離れている回答者(n=46)のうち、21名は金沢市に住んでいると回答している。つづいて多いのは七尾市で7名である。

表 13

現在住んでいる地域	度数	%
輪島市	1	2.2
穴水町	1	2.2
志賀町	1	2.2
七尾市	7	15.2
中能登町	1	2.2
羽咋市	1	2.2
かほく市	2	4.3
津幡町	2	4.3
金沢市	21	45.7
野々市市	1	2.2
白山市	3	6.5
小松市	3	6.5
石川県外	2	4.3
合計	46	100.0

Q3-3.震災前に住んでいた地域に戻ることは可能か(n=46)

- 現在、被災した地域から離れている回答者(n=46)のうち、7割弱の方が、震災前の地域に戻ることに難しいと回答している。

表 14

震災前の地域に…	度数	%
戻ることは可能である	14	30.4
戻ることは難しい	32	69.6
合計	46	100.0

Q3-3-1. 将来的に地元で暮らしたいか(n=14)

- 震災前に住んでいた地域に戻ることに難しい回答者(n=14)のうち、将来地元でいつかは暮らしたいとの回答は9件、わからないが3件である。戻りたくないは無回答もそれぞれ1件ずつある。

表 15

将来地元で…	度数	%
いつかは暮らしたい	9	64.3
戻りたくない	1	7.1
分からない	3	21.4
無回答	1	7.1
合計	14	100.0

Q3-3-1-1. いつかは暮らしたい理由について(複数回答, n=9)

- 震災前の地域でいつかは暮らしたい回答者(n=9)の理由で最も多いのは、「生まれ育った地域だから」で6件、つづいて「地元で子育てをしたいから」で5件である。

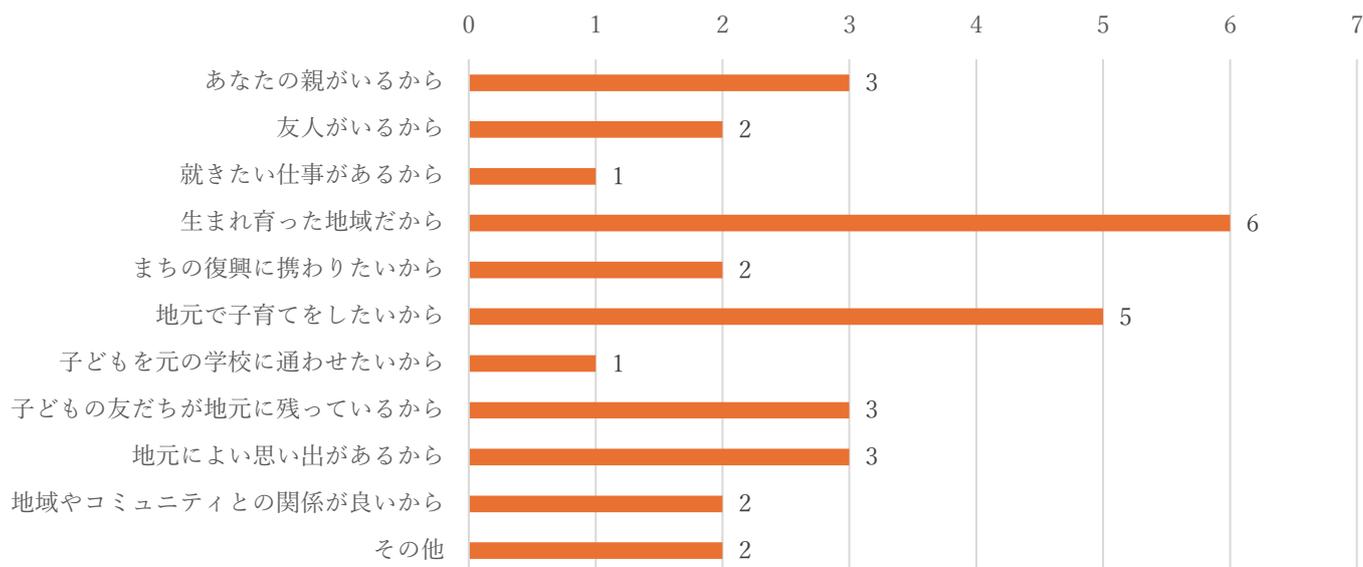


図6

表 16

暮らしたい理由	度数	%
あなたの親がいるから	3	33.3
友人がいるから	2	22.2
就きたい仕事があるから	1	11.1
生まれ育った地域だから	6	66.7
まちの復興に携わりたいから	2	22.2
地元で子育てをしたいから	5	55.6
子どもを元の学校に通わせたいから	1	11.1
子どもの友だちが地元に残っているから	3	33.3
地元によい思い出があるから	3	33.3
地域やコミュニティとの関係が良いから	2	22.2
その他	2	22.2

その他

- 職場が輪島なので。
- 夫の仕事の関係。

Q3-3-1-2. 地元に戻りたくない理由について(複数回答, n=1)

- 地元に戻りたくないと回答した 1 名の回答者の理由は、表 17 の通りである。

表 17

離れたい理由	度数	%
仕事がないから	0	0.0
近隣との関わりが煩わしいから	0	0.0
子育てがしにくいから	1	100.0
地元によい思い出がないから	0	0.0
被災したことを思い出してしまうから	1	100.0
あなたの親・親族との折り合いが悪いから	0	0.0
子どもが思いっきりあそべる環境がないから	1	100.0
子供の成長が心配だから	1	100.0
子どもの習いごとの環境が少ないから	1	100.0
子どもが安心して学べる環境ではないから	1	100.0
再び災害にあうのが怖いから	1	100.0
その他	0	0.0

Q4. 現在住んでいる地域の子育てのしやすさについて

- 現在住んでいる地域について、「子育てがしやすい」と回答した割合は 49.1%であり、「子育てがしにくい」と回答した割合は 50.9%である。

表 18

住んでいる地域は…	度数	%
子育てがしやすい	278	49.1
子育てがしにくい	288	50.9
合計	566	100.0

Q4-1.子育て環境に足りないもの(自由記述, n=288, 一部抜粋)

- 子育てがしにくいと回答した方(n=288)に、子育て環境に足りていないものを挙げてもらった。その結果より一部抜粋したものを例示する。

- 子どもの遊び場、習い事など。
- テニスコート・グラウンド・体育館等が被災しており練習出来る場所がない。
- 学びの指導者と場
- 放課後とか休日に、子どもたちが遊べる施設などもっと充実していたらと思います。後、子どもの服など買える場所が少ないかと。
- 子供同士、親同士の交流の場、遊び場が少ない
- 子どもの居場所がない
- 子供たちの遊び場所、習い事の環境が備わっていない。
- 教員環境が良く無い
- 公園や自由に運動する場がない。子どもの衣類など用品を購入する場が少ない。危険な場所や不審者が増え、登下校などが心配。(現在は家族が送迎できるときはしている)
- 少子化で学校や習い事、部活動が少なすぎる
- 病院、子どもの集まる場所、習い事などたくさん
- 公園、体育館、思いっきり遊べる所が欲しい
- 子どもが過ごす場所がない。図書館の休館、時短が困る。なぜ困るかという、そこ以外子どもが過ごす、勉強して保護者を待つ場所がないから。図書館の建物が避難場になり、ずいぶん使用出来なかった。
- 震災で小学校が使えなくなり中学校に間借りしているので教室が足りません。土曜も子供を預けられる所がほしいです。思い切り体を動かせる所もほとんどありません。
- 習い事がなくなって、やりたいことをさせてあげられない。
- 子どもの遊ぶ場所がない。本屋がない。学校に必要な文具を買うところがない。部活や運動のクラブのする場所がない。通学路が危険。塾や習い事がない。
- 子供の遊び場、子供のクラブ活動場所、子供がいらない、クラブ活動をするのにとっても困難
- まずは登下校の道路の安全性が未だ確保されていない。
- 子供の学習環境以外に遊ぶ場所や習い事、部活動、本屋や飲食店、学習用品などや子供用品など買う場所がなくなったこと。自転車などに乗るには道路復旧ができてないこと。何もかも選択肢がないこと。
- 子どもの安全な遊び場が少ない。特に梅雨、冬場。図書館も利用時間が短い。子どもたちが集える場がない。真夏でも外に何時間もいる。

- ピアノ、そろばん、習字、英語教室など習い事の間がなくなってしまった。小学校のグラウンドが仮設住宅になり、外で遊ぶ機会が減ってしまった。
- 児童が少なく色々な、行事が十分に出来ない。子供の衣料品など、ちょっとした必要なものが、近くで買えない。
- この場所だけではありませんが、共働きで、身内など身近に頼れるひとがない為、工作中、病気やケガなど急な対応の支援や休日営業している病院、行政機関があるとうれしい
- 校外学習の機会
- 学校のグラウンドも仮設住宅が建ってたり、遊ぶところが少ない
- 習い事や交通機関が少ない
- 小学校統合に向け動いており選択肢が少ない。支援の必要な児童や不登校等、多様な子どもたちがいるので、どの子も安心して通えるような学校、選択肢が必要。
- 習い事の教室や先生が減っていて、やりたいことができない。成長が著しい大切な時期にやりたいことを出来ない。他の地域ならできるのに我慢をしていることが多い。公民館や体育館等を提供して習い事の機会をつくってほしい。
- 陸上競技場やグラウンド等、スポーツをする場がなくなっている。思い切り体を動かす場所も少ない。マリントウン公園のふわふわドームも壊れたまま直っていない。
- どんな習い事をさせるにしても、親の送り迎えが必要で、子供達に勧め辛い
- 公園などの安全な遊び場
- 習い事がない。体力面が気になるので、身体を動かす教室がない。教える人も施設もない。以前はトランポリンや水泳をしていた。アスレチックのある公園がない。安心して自転車に乗れる道路も破損している。
- 公共交通機関のバスが少ない

Q5. 今後必要と感じる子育て支援について(自由記述, 一部抜粋)

- 回答者全員に、今後必要と感じる子育て支援について挙げてもらった。その結果より一部抜粋したものを例示する。

- 経験の提供
- 部活動やクラブ活動が思い切り出来る場所を提供して欲しいです。
- 奥能登でも様々な体験ができる支援が必要
- 塾が近くにあればよい。
- 物資などが必要
- 発達に心配があるため、相談出来るところが欲しい。
- 家の再建費用の補助金について、高齢者には手厚いが子育て世代には何もない。
- 再建計画もしなければならぬ、それでもここ数年は子供の学費などもらかかってくる不安があり、子供が進路の選択肢が影響されるのを避けたい、金銭面の辛さがありここから何もかも不安でしかないです
- 子供達の為、暮らして行くための支援
- 育児、病児、放課後の児童を対象とした支援体制
- 天気が悪くても安心して遊ばせられる施設があってほしい
- 通学路の整備 災害に対する心のケア
- 子育て中の保護者がもっと柔軟に働くことができるように

- 地震前の状況になれば良い
- 子供が安心して遊んで学べる安全な街づくり。教育施設は季節の変動や防災に強く。
- 学校も行政も子どもの事を見ていない、漆器や朝市、年配の人しか見ていないと感じる
- ここにいると当たり前をあきらめてしまうのであきらめてしまっていることに気づいてくれる大人がいるといい。外部の方で
- 塾などがないので、学校で塾の様なものがあると良い
- いろんな子どもや人とふれあえるような支援があればいいなと思います。
- 被災地域なので、学費の免除や予防接種の免除があればいいなと思います。運動場とか仮設住宅が建っており子供が遊ぶ場所がなくなったので、遊ぶ場所がほしいです。
- 子どもが支援級に在籍しているのですが、カウンセリングの支援がとても助かりましたので、引き続き未長く利用できるようにしてほしいです。今の仮校舎は旧校舎と比べて保健室の場所が賑やかで落ち着かない事と、旧校舎と比べて子どもが避難できて安心して過ごせる教室数が少ない中、なんとかやりくりしている状況です。子どもは今年で卒業ですが、新校舎では配慮がしやすいように先生方やカウンセリングの方々の意見を持って建築してあげてほしいです。
- 公文や英会話に通っていたのですが、地震で先生がいなくなってしまう、勉強する癖がなくなってしまったので、塾があると助かります。また、子供の娯楽施設も少なく、家に閉じこもっているのもっと遊び場があるといいな、と思います。
- 震災から一年。心のバランスを崩している子が目立ちます。苛立ちを他の子にぶつける子、被害妄想を抱く子など、学校に相談しても改善に結びついていないと聞きます。メンタル面のケアが最優先と思われます。
- 安全な通学路、色々な人との交流や体験
- 震災後、いろいろな子ども向けイベントが企画されていますが、子どもが行きたがらなかったり、土日で親や子供が家でゆっくりしたいこともありで、なかなか参加できません。イベントがあるのはとてもありがたいのですが、タイミングが合わないのがもったいないなと思います。
- 子どもの心のケア、大人にも心のケア
- 図書館と避難場所を分けてほしい。
- 地震から学校に行けなくなった。不登校に対応したフリースクールが近くにほしい。中学生からじゃないと行けない施設しかない
- 学校までの交通機関の充実
- 子供達が…地震の時の思いを持ったままなので…ケアや相談できる場があるとありがたい。
- 天候関係なく体を思い切り動かせる室内遊具などがある場所がほしいです。震災前は片道約 30 分程度で通えた療育も道が寸断されてしまい片道約 1 時間かけて通わなければならなくなり近くで療育を受けれたら学校も休ませなくてすむかなと思います。
- 通学路の復旧
- 自由に集まって遊べる遊び場
- 安心できる小児科が近くにあること
- もっとスポーツクラブ等を充実させて欲しい
- 子育てにまつわる様々な機会が減っている。もしくはもっと減っていく危機感があります。大きな災害があったからこそ、成長や経験・学ぶ機会を増やしてほしい。
- そもそも子どもが少ない地域でたため、地元でできる習い事やスポーツに限りがあり、町外に出向くしかありませんでした。震災を機に習い事が減り、職場のスタッフも減ったことで送迎のためのシフト希望も出しに

くく、子どもの可能性ややる気に答えられないことが多々あります。子どもの時期にしかできない経験をさせてあげられるような支援をしていただけるとありがたいです。ただ、イベントのような支援の場合、受け入れや対応を下さっている役場職員の方が休めていない状況が見ていて辛くなります。頑張りどきではあると思いますが、個々の自助努力や生活再建に向け自立性を育てていくことも大切だと思っています。学習ができるスペースや放課後の居場所づくり、習い事が再開できるよう事業者への支援などを、行って頂けるとありがたいです。また、子どもたちに『生き抜く力』を教えていただけたらと思います。

- 子どもがやりたい習いごとをさせてあげたい。家の修繕費がかかるので、給食費無償など子どもに関わる出費を抑えられる支援があったらいい。
- 通っていた学校に通わせたいと思い住居を確保しましたが少し遠かったです。友達と過ごす時間が部活もあって学校ばかりとなってしまったので、学校と離れた場所でのびのびと、ゆっくり友達と過ごせるようなイベントがあると良いな、と思っています。
- 仕事が終わってから買い物にいけるように開いているお店を増やしてほしい。空いてない店が多いから休みの日しか買い物できない。子どもたちの遊ぶ場所、公園や運動場、武道館が被災で使用できないので、使用できるようにしてほしい。運動不足が心配。解体や、復旧作業の業者の車の通りが多く、また速度も速いため、歩かせることに心配がある。
- 金沢の様に当たり前に整備された公園にトイレがあり、さまざまな習い事や遊びが選択出来る環境が欲しい。ソフトボールを子どもがしているが、特に冬場は練習出来る場所がなく困っている。誰でも運動が自由に使用出来る屋内場所が欲しい。
- 給食費の無償化
- とにかく経済的、心理的サポートが必要だと感じています。転職を余儀なくさせられた人はほぼ間違いなく収入が下がり、二拠点生活をしている人は今までよりガソリン代が必要な状態におちいています。
- 小学校の建替
- インフラの安全性の確保してを早急にすすめてほしい。子も親も安らげるような、笑えるような機会があればいいなど。
- 子供達の居場所をつくる。気軽に待てる児童館が必要。時間もある程度遅くまでいれる場所。
- 支援物資、就学支援金等お金のサポート、心のケアを含む様々な体験支援
- 安心安全は、もちろんですし、学用品など負担金を減らしてほしいです。
- 金銭的支援
- 習い事の充実、公園や子どもだけで安全に過ごせる場所が欲しい。育児世代の人が働ける場所がほしい。帰ってきたいのに帰ってこれない現状知って欲しい。年配ばかり手厚い感じがして、若者が出ていくしかない状況わかってほしい。
- 少子高齢化が進んでいる地域だからこそ、子どもを大切に作る施策をしてほしい。穴水町は保育料無料、小学校の給食費無料、医療費無料とかなり支援してくれているので助かっています。気軽に子供も親も集まれる場所が充実したらいいなと思います。
- 家から物を取り出せない潰れ方をしたので、1 から物を揃えないといけなく、3 人分となると、調理実習で使うエプロンなど、些細な物かも知れませんが、子供が学校に必要な物を支援してくださると嬉しいです。
- 子供一人でも、学校帰ったり、外出出来るよう、街頭などをつけて欲しい。
- 子どもが減ったことによって中学校ですら 1 クラスになってしまった。
- 病院の先生はいてほしい 能登で習い事は難しくともいろいろな経験をさせる機会がほしい
- 習い事。都会と比べて学べる・体験できる機会が少ない

- 同年代の子が少ないので、大勢と関わり合い、チームワークや自主性を養えたり、環境になればいいなど思います。
- 子供が歩いて行ける距離にある安全な遊び場。子供が集まる施設は図書館しかなく、定休日困る。地震前のように友達と遊ぶ事が少なくなった。家から出て安全な所で遊んで欲しい。
- 習い事の選択肢を増やして欲しい。
- 習い事の先生に場所を提供したり、習い事を再開や新たに手上げしてくれる業者や先生を募って欲しい
- 1日もはやく学校の校庭が使えるように
- さまざまな支援がありますが、兄弟の年齢差が大きかったり、身体が弱いこともあり、支援を受けるいうより子どもたちに我慢させてしまったり、そういった機会に参加できないことも多いです。
- いろんな支援や企画をしていただいてありがたいですが、積極的に参加できる家族もいれば、そうではない家庭もあることを知っていただきたいと思います。
- 不登校、発達障害がある子供のいれる場所が必要
- 子どもたちに、時間の不自由や習い事への不便さなどしわが寄せきたりしている部分を改善してほしい。
- 子どもが運動出来る体育館が必要と思います。学校が終わった後、各家庭以外で集まれる場所がない。みんなで集まれる場所があれば。
- 子供が安心して遊べる場所。公民館など放課後開放してほしい。運動場で思い切り体育をしたり、休み時間に外で思い切りボールを蹴ったり、当たり前の子供の学校生活をさせてあげたい。
- 子ども食堂、カウンセラー、文房具などの物質
- 天候に関わらず、自由に遊べる児童館のような場所があると嬉しいです。
- ますます若い人口が流出している。学校を統合して生徒人数を増やし部活や友人関係など好きな事が選択できる環境、学校設備、グラウンドなどまともな環境に修復してほしい。災害の爪痕が生々しく残っており、精神的にも良くないと思う。僻地ならではの特色ある何かがあれば。
- お金や支援物資もありがたいが、遊び場がすくないので、子供達が参加したい！とワクワクするようなイベントをたくさん開催してほしいです
- 地震前までしてしま習い事の先生も被災し、いなくなった。子供の可能性を引き出すチャンスが失われている気がする。能登にいないとできないこと、能登にいる価値を子供自身が感じる事ができる経験をさせてあげたい。
- 能登から避難もしくは移住した子供達で、また能登にいた時に同じ学校に通っていた出て来ている子供達で宿泊体験や旅行に行き繋がりを持てると、出身地への良いイメージや故郷への思いを持ち続けることにも繋がり、将来の能登にとっても子供達の将来にとっても良いように思います。また不安や悩みを共有することで、避難先や移住先で前向きに行きて、進んで行けるように思います。球技大会や運動会のようなものでも良いかもしれませんし、自然の家のような施設での体験でも良いように思います。
- 転校していく子もいるので、そういう点のフォローや複式化が進んだことによって、勉強の遅れが心配。
- 自閉症児など障害のある子がのびのびと暮らしていける環境の整備。
- 非常時に子どもが避難できる場所が欲しい。現在町の中は、倒壊家屋、空き家、解体中の家屋が多く、何かあった時に助けを求められる所が少ない。どこに行けば安全かという情報等も有れば良いと思う。
- 何をすることも送迎が必要なのが苦痛
- ここは〇〇が危ないなどの理由で、こどもたちに我慢させることが多かった。思いっきり体を動かしたり、走りまわって遊べる事が出来る公園やプールがほしい。
- 無償でいつでもあそべる屋内施設が必要です。子供が自分で行けるところがないのでは子供は孤立します。

学びに繋がる体験施設も必要です。学校以外の教育、養育に繋がる場所が足りていないと思います。公園もなく、外で遊ぶのが危険なほど暑い夏休みは家でゲームするばかりです。

- 託児所、学童保育の無償化
- 高校卒業まで金銭面の負担が軽減される制度を考えてほしい
- 昨年 1 年かけてたくさんのご支援をいただき、中でもたくさん遊び場をつくって頂き、我が子は楽しんで行かせて頂きました。が、しかし、もともと子供の人数も少なく、イベントに集まる人数もなかなか集まらず、せっかく企画してもらっているのに残念だなと感じることもあります。狭い地域で少ないコミュニティの中にいるので、他の地域の子たちと交流できる場があれば楽しいのかなと。
- 楽しいイベントをして欲しいです。悲しい事をや怖かった事を忘れ、笑顔で過ごす機会を増やしてくれたら嬉しいです。
- 大学へ進学させやすい環境を作ってほしいほしい
- 子供達が地元ですっと生活出来るような支援
- 子供同士が思いっきり走って遊べる場所があったらいいな。と思います。
- 子どもが安心して徒歩通学できるよう通学路の整備(地震で道路が凸凹のままである)
- もっと、室内や外でも遊べる場所が増えると良いと思う。新しく小学校や中学校・高校などに入学する際に制服や指定のズック・カバンなど、必要経費がかさむ為、最初のズックやカバンは無償で配布にしてくれると助かります。
- 障害者に対する支援
- 普段は学童を利用していなくても、夏休みなどの長期休暇に利用できるような子供を預ける場所が欲しい。低学年の間は一人での留守番も不安で、仕事をやすむしかなかった。学童クラブへも相談したが、一時的な預かりはできないと断られた。
- 震災対応に仕事が繁忙期なので、夫婦の時間が少なめになったため、気軽に幼児や子供を預けられるコミュニティがあると助かる
- 3 歳、4 歳、5 歳はコロナで人とかかわることや、体験することが出来なかった。6 歳で地震を経験し恐怖心が常にある。今後は、人や地域にかかわること、自然の中で体験すること、が出来る仕組みや支援をお願いしたいです。
- 運動する場所が必要です 陸上競技場は仮設住宅になっている。小学校の体育館は壊れたままで体育ができない。小学校のプールも壊れて使えない。公園は地割れしたまま。
- 親は仕事で、子供が学校終わってから 1 人での時間を不安に感じている。(地震の後から)仕事を辞めるわけにもいかないし、毎日離れた所に住んでいる祖父母に頼むわけにもいかず困っている。学童行くにも高学年のため、ためらってしまう。なにかいい方法があれば教えてほしい。
- 災害で、子どものこと(夫が多忙になりワンオペせざるを得なくなったり)で仕事を辞めざるを得なくなった人もいるので、解決できたらと思います。子育てしながら働きたいが、条件に合う所が少ないのもネックです。
- 放課後に安心して過ごせる場所や遊びや学びの場所があったり、異世代交流できる全世代デイサービスのような気軽に立ち寄れるみんなの実家みたいな場所が送迎付きであつたらいい。両親共働きのため、放課後子どもとゆっくり過ごしたり、勉強を教えたりする時間や余裕がない。祖父母のいない家庭には、いろんな事を教われる機会が少ないし、習い事の送迎も難しい事が多い。
- 小学生の学童保育施設の増設。夏休みや春休みなどの長期休暇で利用できない場合、預け先がないと仕事ができない。定員オーバーや、特に中学年以上になると入所できない児童も多く、その為仕事に支障がでて

いる。

- グラウンドや体育館が地震で使用できなくなったため習い事の場所が変更になり、送迎が大変になった。早期の復興工事をお願いしたいです。
- 県外や海外から多くの方々が復興支援のために尽力してくれているが、親目線から見ると知らない人が多くて不安でもあり、1人で下校している時に声かけや連れ去りされないかとても不安。退職された方などに協力をお願いして(もちろん報酬もきちんとして)、見守り隊のように要所要所にいてくださると少し安心できるかもしれない。
- 習い事を充実させてほしい(近くにはほとんどないため親の送迎が必須)学年関係なく放課後子供を預かってくれる施設の充実(地震から高学年であっても1人では家においておくのが心配)
- 災害後のメンタル支援
- ひとりひとりに対応した学習環境。
- 輪島市内にいる子供達には制服の支給や物資が当たったと聞きました。金沢市に避難してきたうちの子達は制服、体操服、その他進学用品を買いました。同じ被災者なんやけどなあ、戻れる家ないし金沢の学校に進学しただけなんやけどなあ…と思いながら…市外に避難してる子達も、もっと気にかけていただけたらいいのになあいつも思っています。
- 通学のための送迎バスの充実。図書館など、学校以外で勉強できる場所。学校以外で子どもが集まれる公共の施設。

Ⅲ 発災後の子どもの居場所の利用について

Q6. おとなが常駐する支援の場(学習支援や遊ぶことができるスペースなど)の利用について

- 表 19 の通り、発災後におとなが常駐する子どもの居場所を利用した割合は 30.6%である。7 割弱と、比較的多くの子どもが、災害時のこどもの居場所を利用していなかったことがわかる。

表 19

発災後、子どもの居場所を…	度数	%
利用した	173	30.6
利用しなかった	393	69.4
合計	566	100.0

Q6-1. 子どもの居場所があった場所(n=173)

- 子どもの居場所があった場所について最も多かったのは、無回答で 37.6%である。その他を用意していない項目であることを踏まえると、選択肢以外の居場所を利用していた可能性が推察される。
- 無回答を除くと最も多いのは「公民館等にあった」で 21.4%である。

表 20

	度数	%
避難所内にあった	31	17.9
仮設住宅の一角にあった	11	6.4
公民館等にあった	37	21.4
学校内にあった	29	16.8
無回答	65	37.6
合計	173	100.0

Q6-2. 居場所の利用経緯(複数回答, n=173)

- 居場所の利用経緯として最も多かったのは「学校で案内が配られた」で 64 件、つづいて、すでに利用している友だちの親から勧められた」が 60 件である。

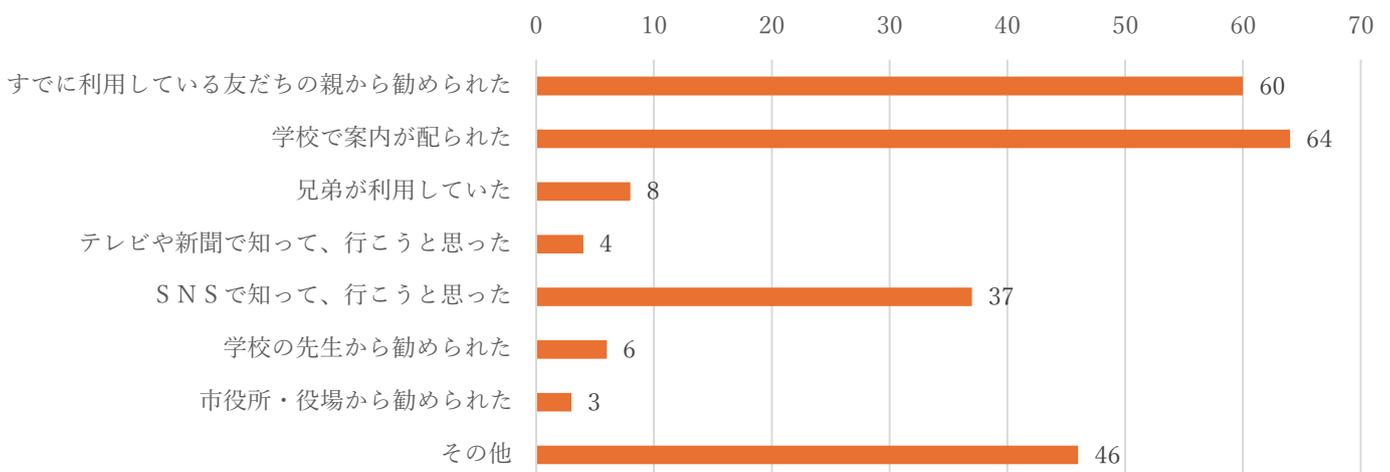


図7

表21

居場所の利用経緯	度数	%
すでに利用している友だちの親から勧められた	60	34.7
学校で案内が配られた	64	37.0
兄弟が利用していた	8	4.6
テレビや新聞で知って、行こうと思った	4	2.3
SNSで知って、行こうと思った	37	21.4
学校の先生から勧められた	6	3.5
市役所・役場から勧められた	3	1.7
その他	46	26.6

その他(一部抜粋)

- SNSで知って、行こうと思った。
- キッズセンターからのお知らせで知った。
- すでに習い事で使っていた場所
- トイレを利用した時に知った。
- もともと行かせている学童
- もともと通っていた
- 仮設住宅に入居し、仮設の集会所内にあったから
- 学校内の学童
- 学童の先生に勧められた
- 既に利用したことがあった
- 近所の人
- 最初は避難所内にあって、その後駅の空いているスペースで再開したので。
- 子供がどこからかきいてきて行っている
- 子供が自分で見つけてきた
- 支援物質を配布していて知った
- 私自身が発災直後から避難所の運営を担っており、カタリバさんの立ち上げから校長先生のお話を伺って楽しみにしていた。
- 自分たちで用意した
- 自分で調べた相談室に紹介されて
- 社会福祉協議会の方
- 職場からの案内
- 職場が託児体制を整えてくれた
- 身内から教えられた
- 知り合いからの誘い
- 知人が運営していたので
- 地域の人から教えてもらった
- 二次避難先でお知らせがあり、利用しました。
- 入浴支援で訪れた

- 避難所にいた時、スタッフの方から声をかけていただき遊んでもらいました。
- 避難所のボランティアさんが遊べる場所を作ってくれた。勉強の場所は教育委員会に行き協力してもらった。
- 避難所の方から勧められた
- 避難所内で「遊びに来て下さい」とお声がけいたしました。
- 避難所内で誘ってもらった
- 放課後児童クラブが開所してくれたので。
- 友達から教えてもらった
- 友達に誘われて
- 利用していた子供から聞いた

Q6-3. 居場所の利用頻度(n=173)

- 居場所の利用頻度として最も多かったのは「週に1～2日程度」で24.9%であり、つづいて、「週に3～5日程度」が18.5%である。
- これらの期間以外の利用(たとえばイベントで1回など)も19.1%と多い。

表22

居場所の利用頻度	度数	%
毎日	15	8.7
週に3～5日程度	32	18.5
週に1～2日程度	43	24.9
2週間に1回程度	19	11.0
1か月に1回程度	31	17.9
上記以外	33	19.1
合計	173	100.0

Q6-4. 居場所の利用開始時期(n=173)

- 居場所の利用を開始したい時期として最も多かったのは、「被災して半年以上してから」で34.7%であり、つづいて、「被災して1か月ぐらいしてから」で28.9%である。
- 被災直後の1週間以内に利用できていたケースは9.8%と少ない。

表23

居場所の利用開始時期	度数	%
被災した後1週間以内	17	9.8
被災して1か月ぐらいしてから	50	28.9
被災して2～3か月ぐらいしてから	18	10.4
被災して4～5か月ぐらいしてから	13	7.5
被災して半年以上してから	60	34.7
上記以外	15	8.7
合計	173	100.0

Q6-5. 居場所ではどのように過ごすことができたか(子ども自身による回答, n=173)

- 図8の通り、居場所での過ごし方として「とてもあてはまる」が最も多かったのは、「安心して過ごすことができた」で 52.0%、つづいて、「みんなで楽しく軽食やおかしを食べることができた」で 38.2%、「大学生など様々なおとなと出会うことができた」で 37.6%、「大切にされていると感じることができた」で 37.0%である。
- 肯定的な意見が多かった項目に着目すると、「支援者がじぶんのやってみたいことを応援してくれていた」も7割弱の子どもが肯定的に評価している。
- 一方、「ぼーっとすることができた」や「一人で過ごすことができる場所があった」などは肯定的な回答が4割以下にとどまっている。

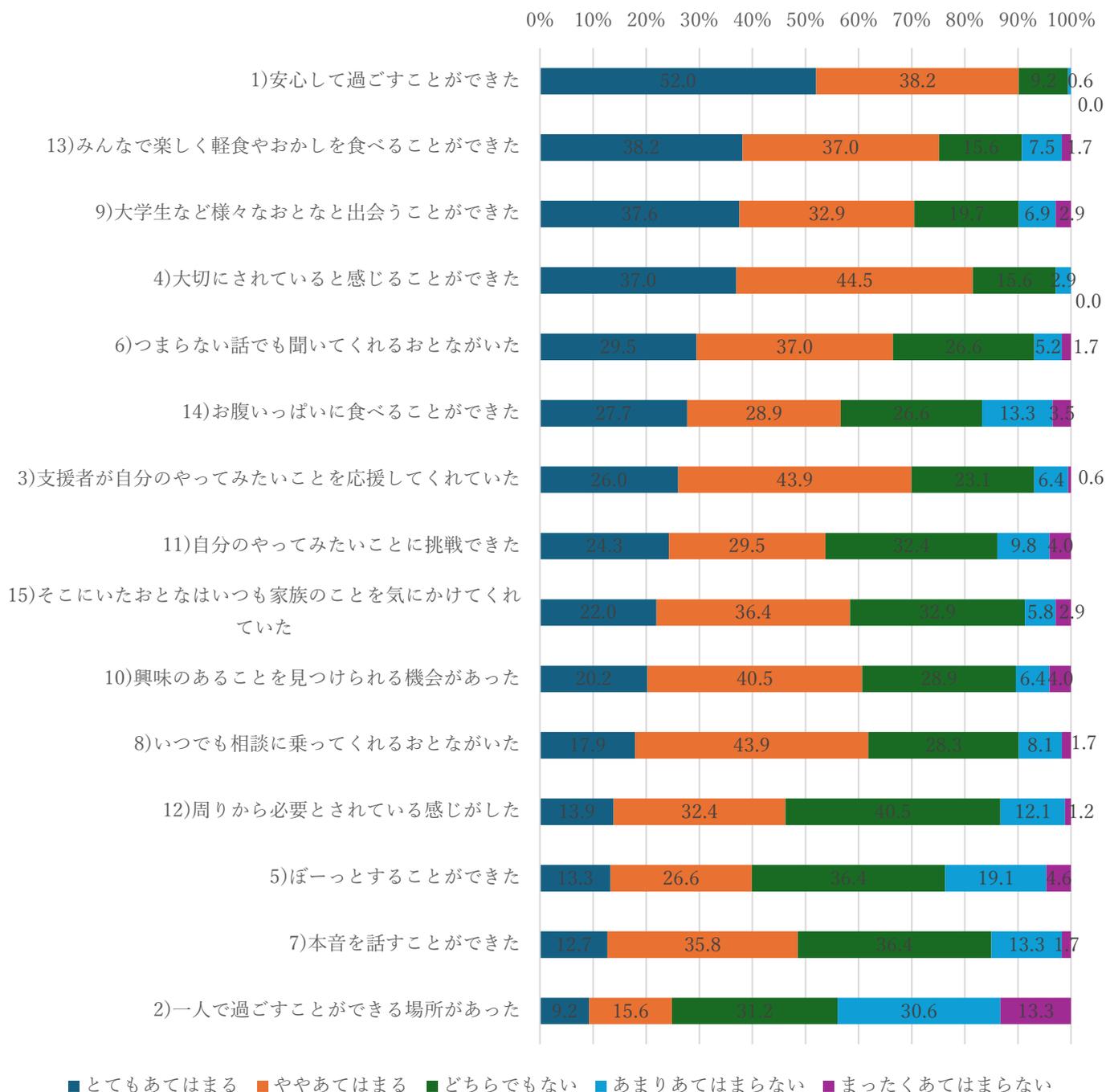


図8

Q6-6. 居場所はこういった場所だったか(複数回答, n=173)

- 利用した居場所の特徴として回答が多かったのは、「屋内で遊ぶことができる場所であった」が 142 件であり、つづいて、「利用料が無料だった」が 137 件、「食べ物や飲み物が用意されていた」が 105 件である。
- また、ボランティア等によって運営されており(91件)、勉強できる場所があった(89 件)というのも多い。
- おとなの力を借りないとアクセスできない場所であった居場所も少なくない(65 件)。

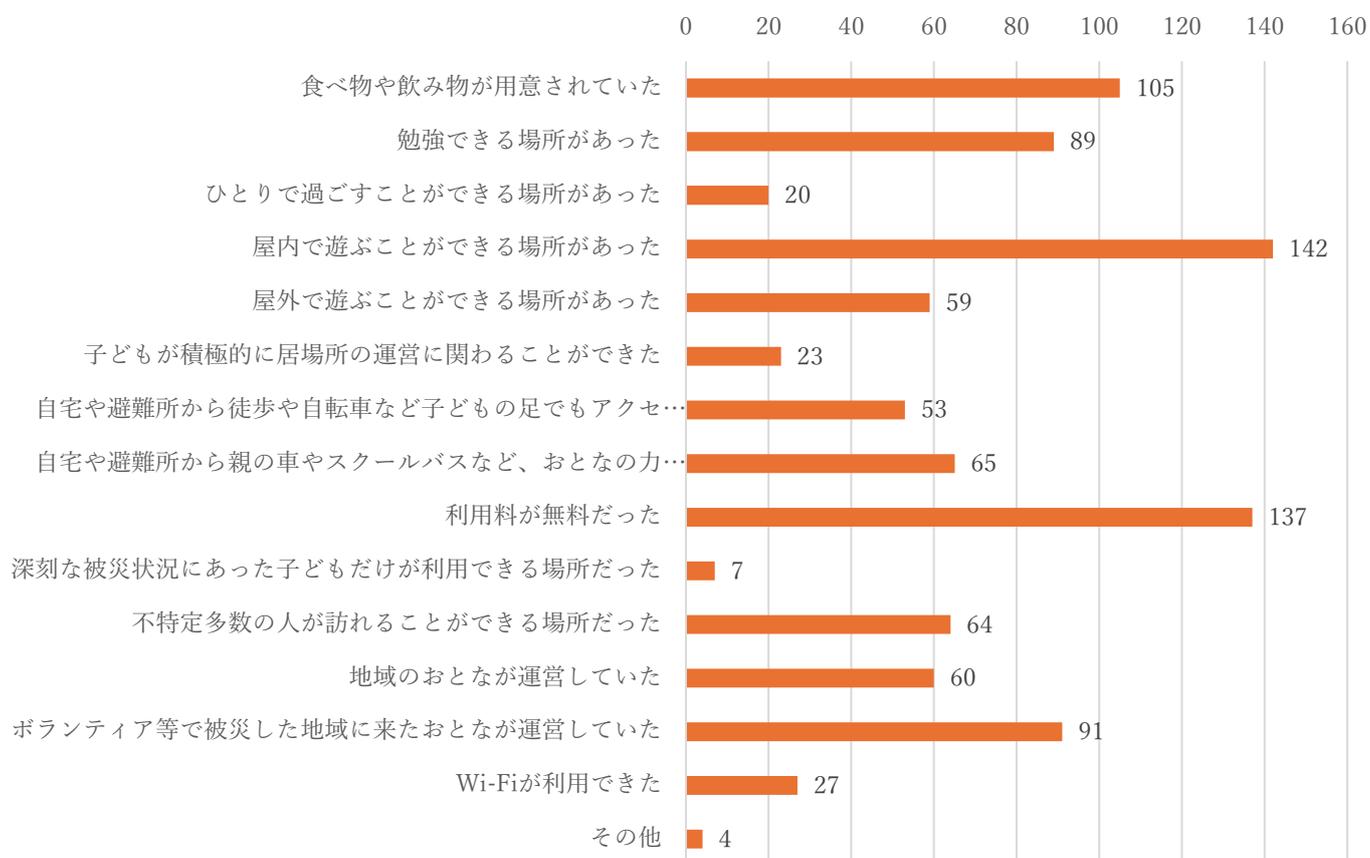


図9

表24

	度数	%
食べ物や飲み物が用意されていた	105	60.7
勉強できる場所があった	89	51.4
ひとりで過ごすことができる場所があった	20	11.6
屋内で遊ぶことができる場所があった	142	82.1
屋外で遊ぶことができる場所があった	59	34.1
子どもが積極的に居場所の運営に関わることができた	23	13.3
自宅や避難所から徒歩や自転車など子どもの足でもアクセスしやすい場所にあった	53	30.6
自宅や避難所から親の車やスクールバスなど、おとなの力を借りないとアクセスできない場所にあった	65	37.6
利用料が無料だった	137	79.2
深刻な被災状況にあった子どもだけが利用できる場所だった	7	4.0
不特定多数の人が訪れることができる場所だった	64	37.0
地域のおとなが運営していた	60	34.7
ボランティア等で被災した地域に来たおとなが運営していた	91	52.6
Wi-Fiが利用できた	27	15.6
その他	4	2.3

その他

- 七尾市の子育て支援センター、あいあいあいさんです。
- 能登高校
- 普段は学童の先生、先生の都合の悪い日にはボランティアの方が来て遊んでくれていた
- 役場の保育士が勤務中にみてくれていた

IV 子ども調査(小学4年生以上のお子さんのみ対象)

Q7.現在の生活満足度(n=392)

- 生活満足度の平均値は 6.46、標準偏差は 2.425 である。6 点以上の割合は 61.7%、4 点以下の割合は 19.4%である。

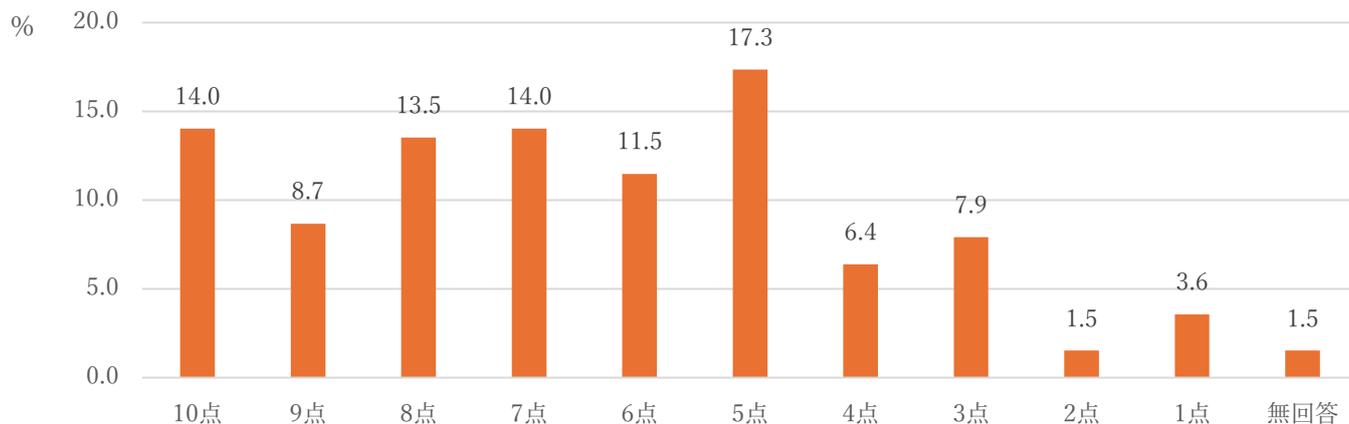


図10

Q8-1.ここ半年くらいの自分について(n=392)

- 図11の通り、半年くらいの間に自分に「いつもある」と回答した割合が最も多かったのは、「おいしいものを食べて満足することがある」で 51.5%であり、つづいて、「笑うことがある」で 50.8%である。
- 「楽しくあそぶことがある」や「色々なことを一生懸命頑張ることがある」は肯定的な回答が相対的に低く、特に「楽しくあそぶことがある」では「あまりない」と回答した割合が 8.4%と相対的に多い。

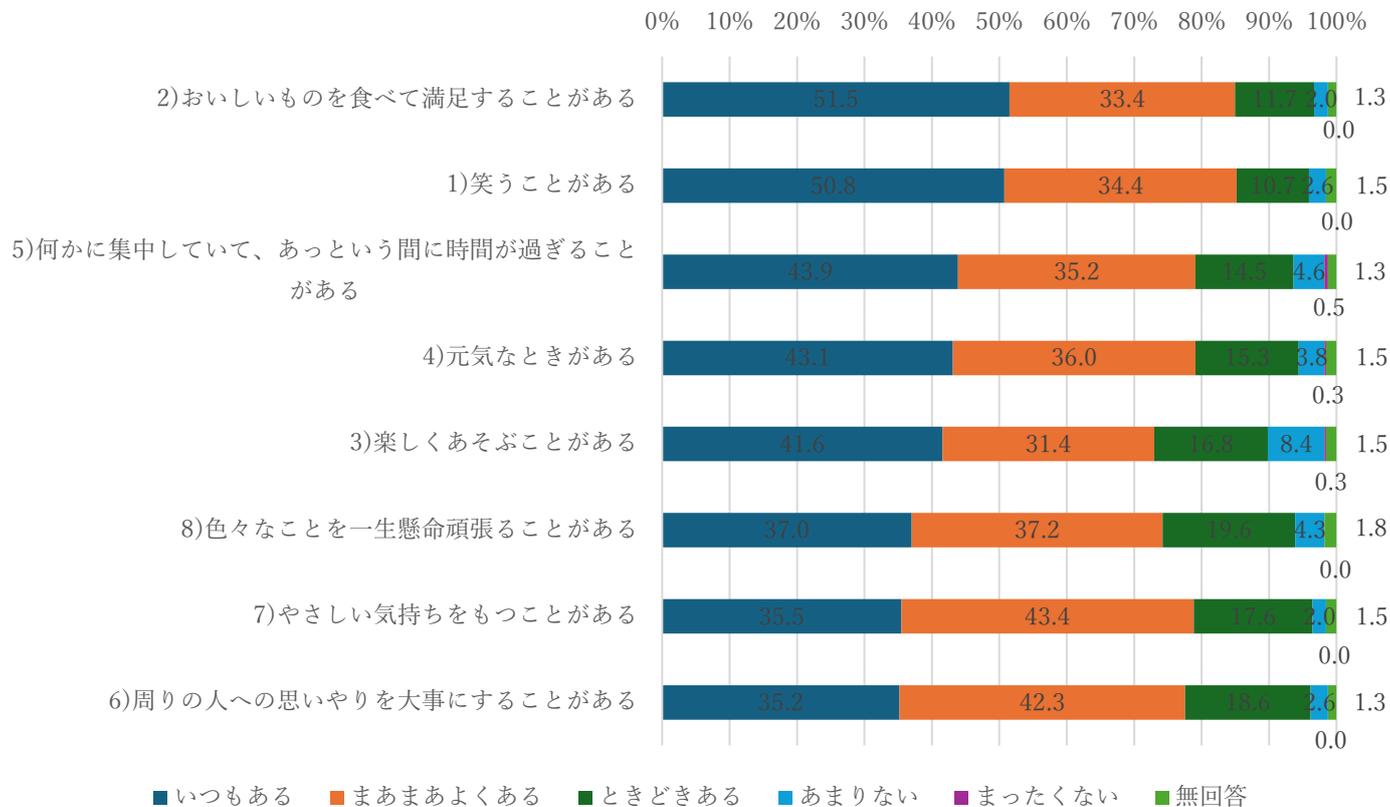


図11

Q8-2.ここ半年くらいの自分について(n=392)

- 図12の通り、半年くらいの間自分に「いつもある」と回答した割合が最も多かったのは、「家族や信頼できる人と一緒にいると落ち着く」で50.5%である。
- 「今の生活に満足している」については、「いつもある」と回答した割合が3割を下回っており、「あまりない」と「まったくない」を合わせた否定的な回答の割合が16.3%と相対的に多い。

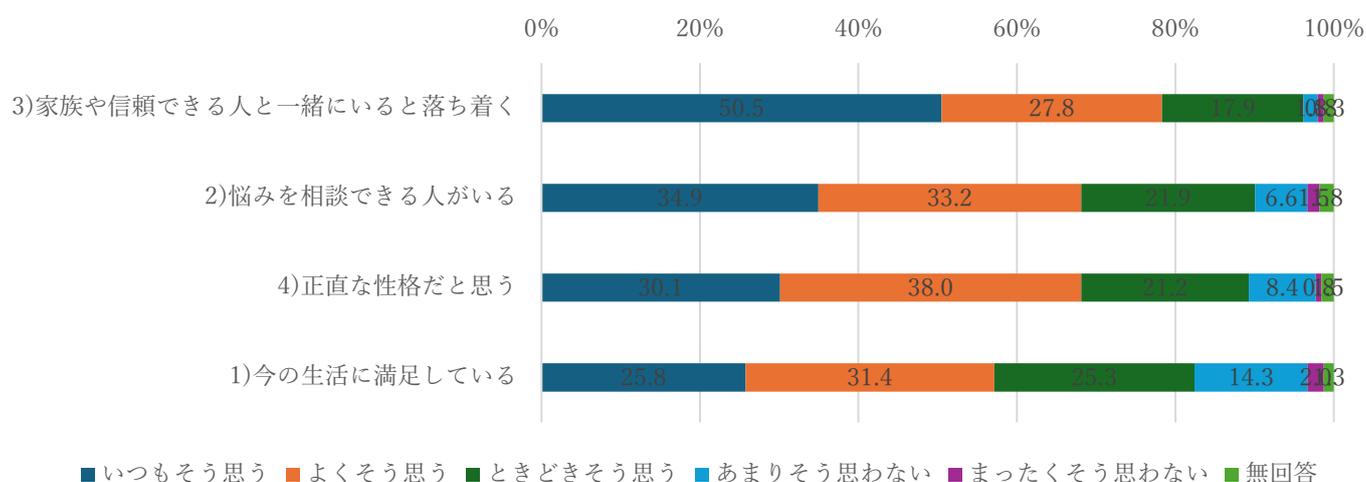


図12

Q9-1. 昨日、以下の感情をどの程度感じましたか。(n=392)

- 幸せな気持ちの平均値は6.85、標準偏差は2.273である。6点以上の割合は67.9%、4点以下の割合は13.8%である。
- 心配な気持ちの平均値は3.61、標準偏差は2.850である。6点以上の割合は26.2%、4点以下の割合は58.1%である。
- 落ち込む気持ちの平均値は2.88、標準偏差は2.715である。6点以上の割合は16.8%、4点以下の割合は66.6%である。
- 穏やかな気持ちの平均値は6.33、標準偏差は2.314である。6点以上の割合は58.7%、4点以下の割合は15.9%である。
- ウキウキする気持ちの平均値は5.44、標準偏差は2.995である。6点以上の割合は47.2%、4点以下の割合は32.3%である。

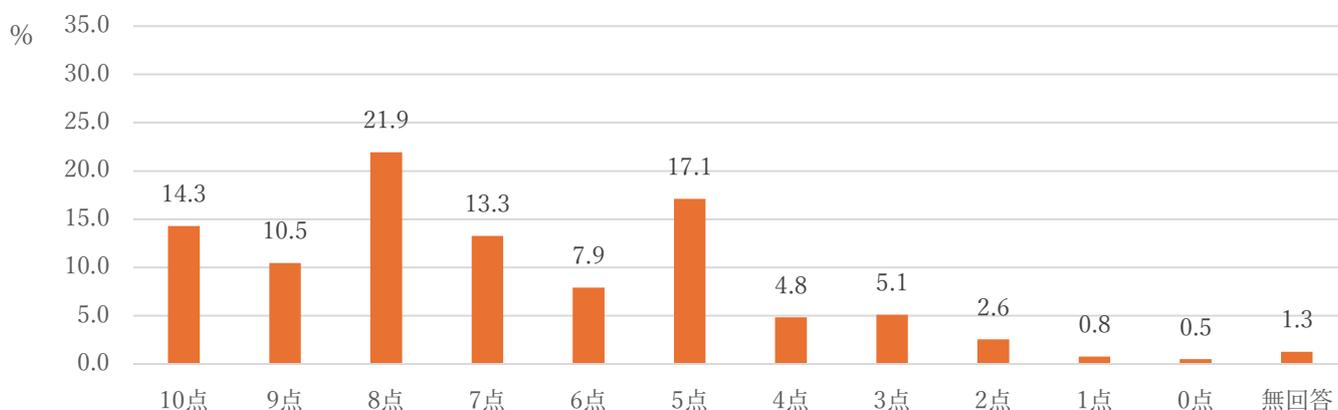


図13 幸せな気持ち

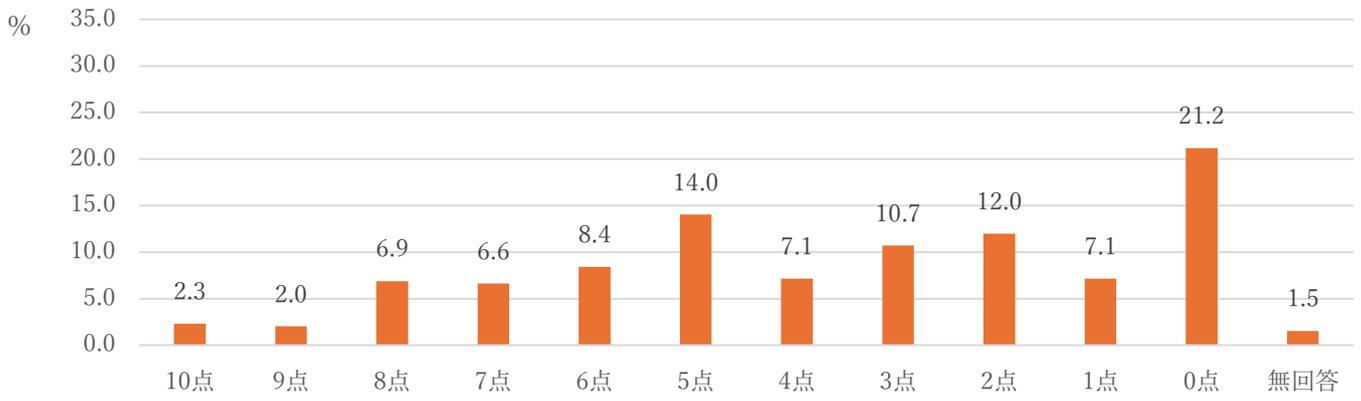


図14 心配な気持ち

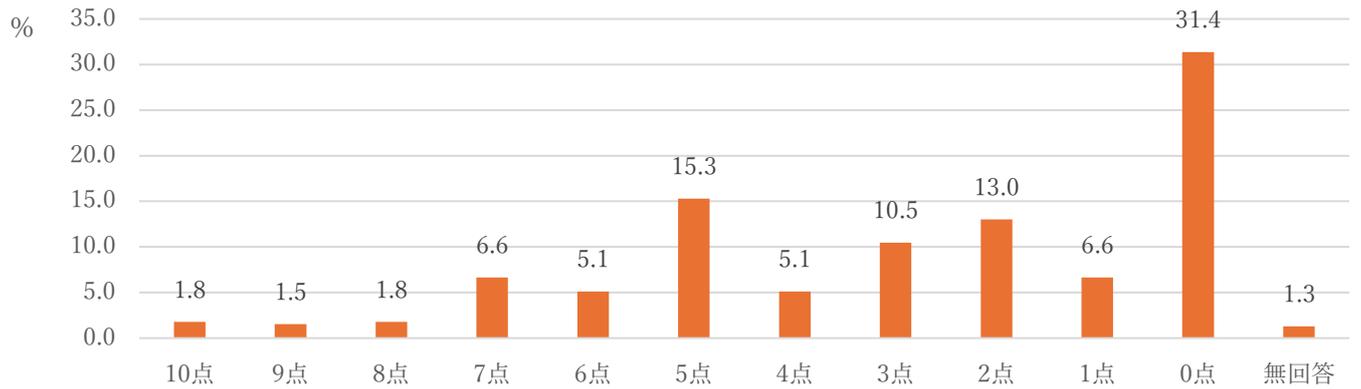


図15 落ち込む気持ち

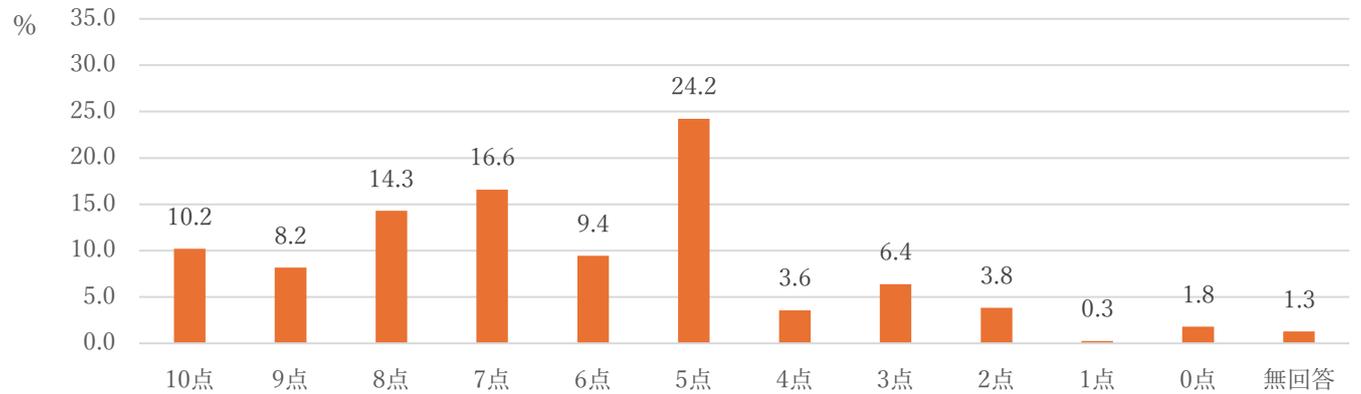


図16 穏やかな気持ち

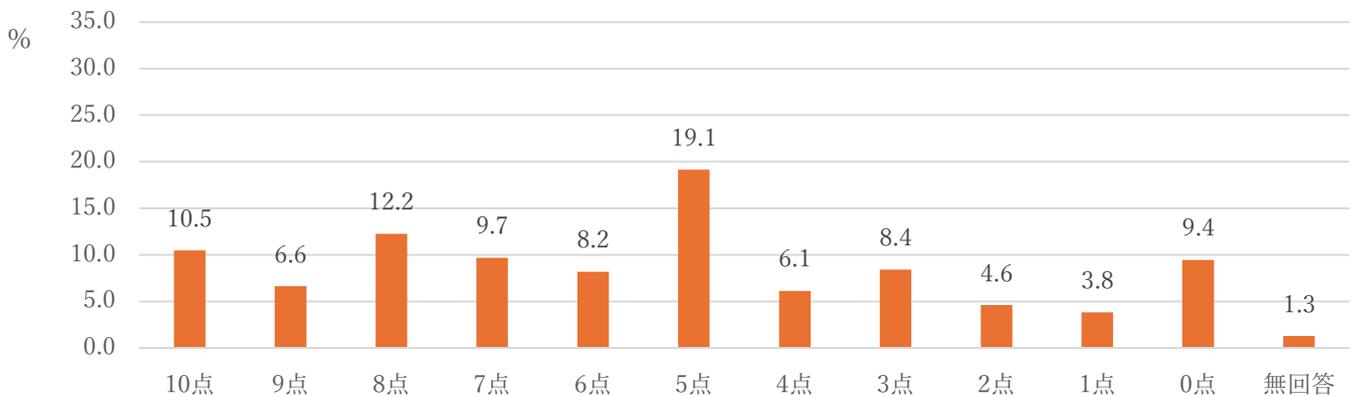


図17 ウキウキする気持ち

Q10. 現在のあなたの悩みや心配ごとについて(n=392, ただし、10~13は中学生のみ回答のため n=181)

- 図 18 の通り、現在の悩みや心配事として「心配」が最も多かったのは、「住んでいる地域の将来のこと」で 25.8%あり、つづいて「自分の将来のこと」で 21.4%、「自然環境のこと」で 20.9%である。
- 「心配」と「どちらかといえば心配」をあわせて 4 割以上の回答を得たのは、「住んでいる地域の将来のこと」「自然環境のこと」「自分の将来のこと」に加えて「勉強のこと」である。
- 中学生以上に回答を求めた 4 項目では、「心配」が最も多かったのは「進学のこと」で 29.3%であり、つづいて「就職こと」で 28.2%、「お金のこと」で 26.0%である。
- また、4 項目すべてで「心配」と「どちらかといえば心配」をあわせて 4 割以上の回答を得ている。特に、「進学のこと」は 6 割を超えている。

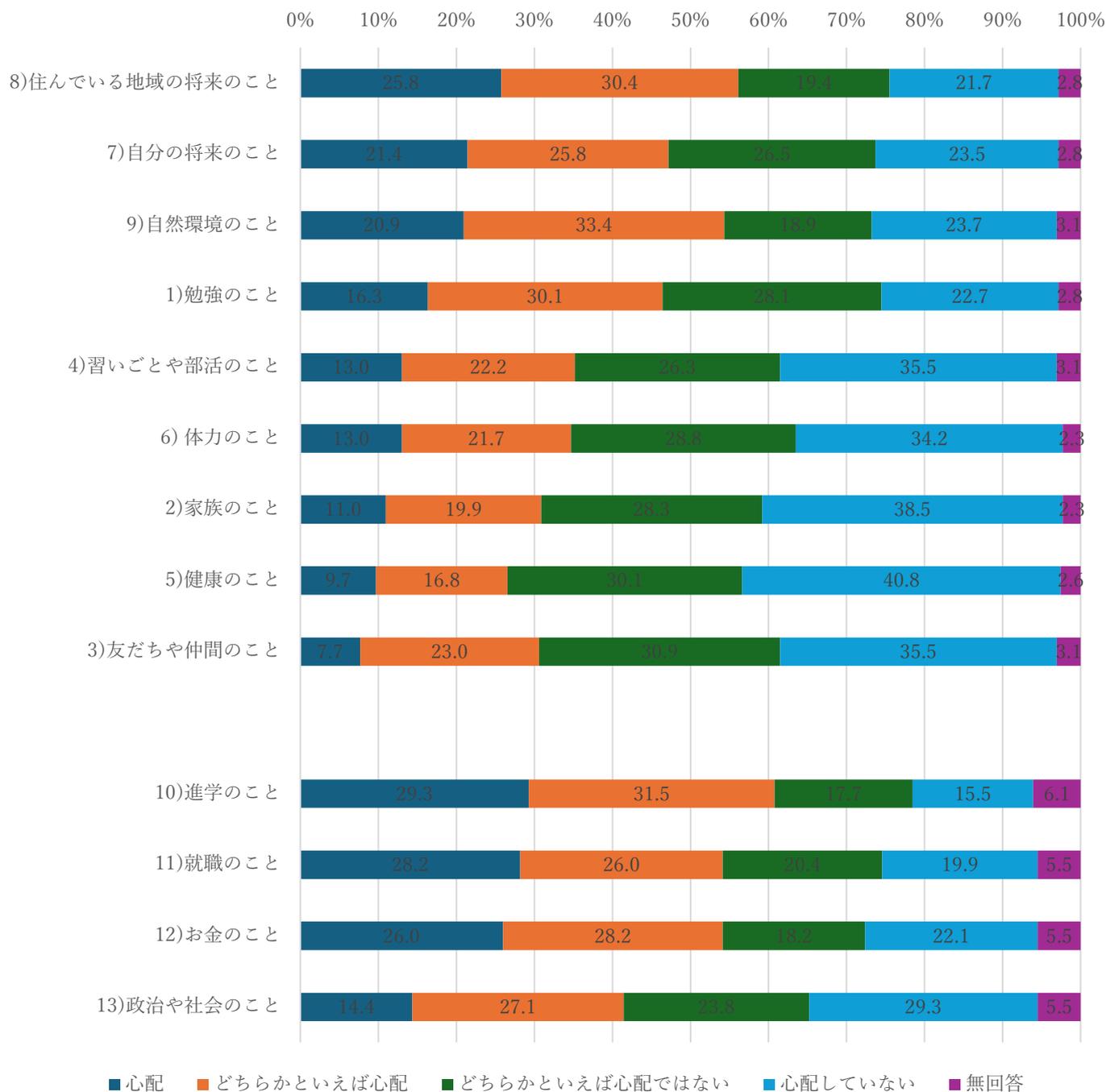


図18

Q11. 地域愛着度

- 表 25 の通り、地元が「どちらかといえば好きである」と回答した割合が 46.4%と最も多く、つづいて、「好きである」が 36.2%である。

表25

	度数	%
好きである	142	36.2
どちらかといえば好きである	182	46.4
どちらかといえばすきでない	29	7.4
きらいである	8	2.0
わからない	25	6.4
無回答	6	1.5
合計	392	100.0

Q12. 震災から 1 年が経って感じていることや考えていることがあれば教えてください。

- 子どもへの回答項目として設定したが保護者が回答しているケースもあった。回答フォームの問題もあるものの、それだけ「1 年が経った」現状への想いが表れている結果であったと推察する。
- ここでは、明確に大人の回答であるものを除外したものの中から回答を一部抜粋する。
- また、保護者による記述も貴重な内容が含まれているため、それらについては子どもの意見を取り上げた後に記載した。

【子どもの声・一部抜粋】

- 珠洲の友達は、どうしているかなと思います。また珠洲の友達と遊びたいな 避難や移住した友達は、いるのかな？って思います。高校や大学に行っても良いのかな。兄弟のために働いた方が良いのかな。色々な部活動をしたいな。家族旅行に行きたいな。釣りに行きたいな。また前にいた家で住みたい。近くに川もあって、海もあって山もあったし。釣って来た魚を刺し身にしたり。またやりたい。祭りに参加したいけど、もう住んでないから行けないかな。参加したら住んでないからって怒られるかな。
- 1 年経っても、小さな地震が続いている。またいつか大きな地震がくるのでは？と思い不安になる
- あの頃は大変だった。今はそうでもない。
- あの時は怖かった。思い出したくない。
- あまり考えないようにしている。
- いつまでこの市はボコボコなんですか
- おじいちゃんとおばあちゃんの家が潰れないか心配。トラックの運転手さんが道路に穴が空いて落ちてしまった事件があって、地震のせいで僕たちも落ちるかもしれない。
- ガタガタの道路などを早くなおしてほしい
- ケガで小指がなくなったこと
- ご飯が食べれてお風呂に入れてトイレができて普通の生活ができて嬉しい。毎日友達と遊べて嬉しい。
- ずっと支援してくれる人がいてくれて感謝している
- たくさん家や人がいなくなって、この先どうなるのか不安
- たくさん支援をしてきていてとてもありがたいと思います。自分の住んでいる町の家がだんだんなくなっていって寂しい街になっていっていると思いました。

- テニスができない 何も成長しない
- テレビを見ている、輪島や七尾はでるが、珠洲はあまりでない、あちこち家が解体され珠洲が忘れられているみたいで寂しい。
- どこに義援金が使われているのかわからない。たくさんの、支援がどう使われているか明確にわかりやすくしりたい。
- はやく震災前の友達と一緒に遊んだりしたい
- また、いつ災害があるのかと考えるとしんどい
- また、地震とか起こらないかと心配になることがある。前のように習い事の武道館とかも直してほしい。
- またいつ地震が来るかわからないので怖い。少し揺れても不安になる。
- また災害がおきないか不安
- まだ自分の地域は復興までいかない。後回し。
- また大きい地震がこないか心配
- また地震があるか心配
- また地震がきたら怖い
- また地震がくるのではないかと不安
- また地震がこないか怖い。遊ぶ所が少なくなった。好きな習い事ができるのか不安。
- また地震が起きないか心配
- また地震が起こったら怖いという気持ちがある。
- まだ地震が怖い
- また地震が来たらどうしようと思う
- また地震が来るかもと想像している
- また同じような震災が起きないか不安である
- また同じ経験をしそうだとこわいです
- まだ怖い
- まだ怖い。またくると思うから不安
- まだ復興が終わってないから、復興をまだまだ頑張してほしい。
- みんな無事でよかった。また地震があったら大丈夫かな。
- もうこないでほしい
- もう災害が起きないでほしい。居なくなった友達も帰ってきてほしい。早く家に帰りたい。
- もう震災が起きて欲しくない。
- もう地震がなければいい
- もう地震は起きて欲しくない。ともだちと離れたくない。
- もっと復興に向けて頑張してほしい
- よくわからない
- 一年たって、まだまだ先が見えない状況でゆっくり休む事も難しいが、やらなければいけない事は増えて行く状況で正直、疲れたと強く感じている。
- 一年たつと元通りではないことを知してほしい
- 一年の節目を迎える前にすごく不安になった。毎年お正月前や、お正月になると不安な気持ちに支配されるのかと思うと、辛い。道路も直した！と思っているが、いつの間にかビビ割れ、段差ができて本当に完全になおるのか？と不安になる。

- 何も変わっていない気がします。
- 何も変わらん
- 何も無いから、引っ越したい気持ちになる。地震がくるかと思って心配になる。
- 家が壊れないか心配、早く治して欲しい。
- 家が早く完成してほしい
- 家が揺れると怖い
- 家を直してほしい。災害が起こらないでほしい。災害に強いまちにしてほしい。学校の休みを増やしてほしい。
- 家族や自分が震災で生きていられただけで感謝しかない。だが今後の生活や復興のことを考えると眠れない夜も多い。
- 解体中のむきだしの家屋が怖い。
- みんなで学び遊びたい
- 外で遊ぶ公園や広場がないのでさみしい
- 街が復興してきて良かった。このような生活が続いてほしい。
- 学校もプールも治らない。
- 学校や通学路の整備がまだ整っていない
- 環境が変わった
- 頑張っているけどなかなかですね…
- 建物の解体が進み、街の風景が変わりさみしい。解体した家の人も悲しいと思う。
- 犬がいるおかげで地震の心配がなくなってきた
- 元の生活に戻りたい、みんなと一緒に帰りたい、家族が仲良くいて欲しい
- 元気な輪島に戻ってほしい
- 光が見えず先の生活が不安
- 国、県、町、みんなクソ
- 今、復興があまり進んでいなくても、この街に残る私はこの地域がすごく好きなんだと感じた。
- 今でも地震が来ると小さい揺れでも怖い
- 今後どうなるんだろう
- 最初は友達が出来るか不安だったけどみんなと慣れていくうちにたくさん出来るようになった。
- 支援が足りない
- 自然災害への怖さ。
- 珠洲、輪島奥能登の事を考えてしまう
- 珠洲から離れた友達に会いたい
- 珠洲から離れようかと考えることがよくある。友達が離れていくので寂しい。外で思いっきり遊べる場所がない。支援にきてくれるのはありがたいが、いい人ばかりではないので残念。
- 就職に対して不安がある
- 住めなくなるかもしれない
- 将来への不安
- 小さな地震で何度か揺れるたびに怖い、思い出す。一人で行動しているときに心配、ひとりのときにまた地震がきたらどうしよう
- 常にまた震災があるんじゃないかと、日々不安な毎日です

- 寝る時に、物音に敏感になった。
- 心配や不安はたくさんあるけど 地震が起きた時に比べると 今はまだ幸せなので頑張って楽しもうとしています。
- 新しい友達が出来て嬉しい
- 進学のこと心配です。
- 震災から一年経って、忘れられていないか寂しいです。これからも頑張っていきますので、温かい応援や、サポートをよろしくお願い致します。
- 震災で遠くに行ってしまった友達に会いたい
- 人が減り、まわりから珠洲が忘れられていってること
- 人が減り能登半島はどうなってしまうだろうと不安があります
- 水が出てくるようになって良かった、水のありがたみを感じた
- 水が出ること、日常生活ができることの有難さを今も感じている。周りの家が次々と解体されて無くなり、また地震があったら自分のとこもどうなるのかと思う。
- 正月がトラウマ
- 絶対に一人で居たくない。夜が怖い。
- 先が不安すぎる
- 先が不安だけです
- 早く安心して暮らせたらと思います。
- 早く震災後という期間が終わってほしい
- 早く復旧してほしい
- 早く復興してほしい
- 早急の復興を願っている
- 損傷した道路がまだ修理完了していない
- 大変でした
- 地震アラームがとにかく怖い。
- 地震から1年たったけど、また地震がくるがしれないと思っています。
- 地震で被害を受けている方々は一年たった今でもたくさんいます。だから、その方たちにとって復興の希望が見えるようにしたいと思います。
- 地震なんか起きなければよかった。何もかも変わってしまって寂しく思う
- 地震の事を思い出すと嫌な気持ちになる
- 地震の時に体育館が使えず習い事(バスケット)ができず、金沢のチームに混ぜてもらった。それを機に金沢での練習環境を知り、中学になっても通うことになった。高校でもしたいと感じているが能登方面にはバスケット部が減っていたり力を入れている高校が少ないためこれからを考えるとやはり金沢方面に住まないといけないうのかなと考えるようになった。
- 地震はとても怖かったので、もう起きてほしくないです。今は地震前の生活を取り戻し、毎日満足しています。
- 地震前のように、何も心配しないで過ごしたい
- 地震発生で空いたバス停の周りの穴をなんとかして欲しいです
- 通学などで通るときに、解体されている家屋を見かけることが多くなり、自分は今までと同じ自宅で生活できることが当たり前ではないんだと、改めて思うことがあります。自然災害で被害にあったことは、つらかつ

たけど感謝して生きなくてはと思うことができた。

- 通学路がまだ、がけ崩れしていて心配だし家の周りのがけ崩れがそのままなので大雨や地震で崩れないか不安だなといつも思っています。
- 堤防を直してほしい。
- 転校する人もいます。正直うらやましいなとも思います。能登はきれいじゃないけど、震災で我慢が増えました。金沢市とかなら、やりたい習い事がたくさんと同級生の中で決まった日に出来たり、春からの中学校生活ももっと楽しいのかなあとも考えます。ここにおいて大丈夫なのか不安もあります。また地震が来ないか不安です。色々心配があるからずっと楽しいって気持ちは少ないです。
- 当たり前が当たり前じゃなかったから一日一日を大切に過ごしたい。
- 同じような地震がまたこないといいなと思っています。
- 道がガタガタで困る
- 道がガタガタで直しても穴が開く
- 道路がガタガタだったり、建物が復活する見込みがないことがふと不安になる
- 道路が治ってよかった
- 道路が復旧していない
- 道路の整備が追いついていない
- 道路の復旧が遅いように思う
- 道路を直してください
- 道路直してほしい。
- 南海トラフなどの大きい地震や自然災害があるのではないかと心配している
- 日頃は地震のことなど忘れていたが、街中を歩くとまだまだ被害の跡が残っていて複雑な気持ちになる
- 能登の未来が明るいのか不安。
- 被災当日から周りの景色が変わっていない。潰れた家、通行止めの道がまだ、まだ、沢山ある
- 不公平
- 普段の生活ができるようになってよかった。水の大切さがわかった。震災前より、お父さんとお母さんと一緒に居る時間が長くなって嬉しい。
- 普段の日常が嬉しいと感じた
- 部屋がほしい
- 部活動で練習出来る場所が少ない
- 復旧が遅い
- 復旧復興が遅い
- 復興が進まない
- 復興が全く進んでいない。
- 復興が遅い
- 復興が遅い。いろいろなイベントで人を呼んではいるが、それが復興に繋がるとは思えない。被害の少ない金沢辺りに人が集まってきていても嬉しくない。
- 復興が遅いので、早く復興してほしい
- 復興どころか復旧もできていないので早く進めて欲しいです。
- 復興は？
- 復興支援がなかなか進んでいない

- 復興復旧が進んでいない。道ががたがたで転んだ。雪道は陥没した所が分かりにくく、融雪装置も機能していないので危なく感じる。友達が転校して寂しい。親が地震の影響でばらばらになり寂しい。
- 分からない
- 平和
- 大好きなミニバスを続けられる環境でよかった。新しい友達がたくさんできた。支援ありがとうございます
- 放課後遊ぶ場所がなくひきこもる
- 本買ったりゲーム買ったり DVD を借りれるところがなくなった。ゲーセンがなくなった。公園、体育館が無くなって友達と遊べるところがない
- 滅びが早まった
- 遊ぶところが少なくなった。友達が少なくなった。
- 遊ぶところがない
- 遊ぶ場所がない…
- 遊ぶ場所すくない
- 余震が怖い、家のことが心配
- 輪島が心配
- 輪島に住んでいてよかったと思いました
- 輪島の友達に会いたい
- 輪島は好きだけど、未来を考えると輪島から出ようと思っています
- 輪島市から出てよかった

【保護者からのご意見・一部抜粋】

- 1 年たち、やっとみなし仮設がきまったが、まだ環境が整っていない。子供がいる家庭にとっては、いましかない成長を地震のせいでは出来ないことを増やしたくない。都会へ出られる家庭とそうではない家庭もある。やはり、子供の将来が気がかり。一度だけでなく、何度も同じ団体が学校に訪問してくれる支援があってほしい。顔見知りになることで、より信頼感がまし、生の子供の声も聞ける気がする。
- 200 万以上の修繕費が必要なのに一部損壊判定になったのが残念である
- アパートに住んで 1 年経つが金沢に避難生活しているという感覚はまだぬけません 地元に戻る予定をしているが 子供にとっての環境が違いすぎて戻るのがとても悩みます 子供の習い事で震災後から金沢でお世話にもなっていますが、月謝無料など支援していただき 1 年が経ち、1 人の保護者にまだいるなら4月からは払っていかないとねと言われ一年経ってるんだしという風潮があるのかなと感じました 被災して、仕事もできなくなり新しくアパートを借りて事情によりみなし仮設にもできず新生活するために何十万とお金がかかりました もちろん払う意思もあり、新年度からは払うとこちらから言うつもりでしたが、部の人ではなく保護者の方から言われるのはなんだか理解してもらえてないんだなと悲しくなりました 金沢に避難していて悩みながら生活している方もたくさんいます 帰るべきかこのままこっちにいるのかと悩んでいる方も多いです でもそういう気持ちや地元の進まない現状を理解はしてもらえてないのかなと感じます
- お店がある程度再開出来てはいるが営業時間についてもまだまだ本営業とはならず、また大工や設備士も数がない為、家の耐震構造+修復は頼んであるが一度も入って来ていない状況でまたいつ災害が起こるかも分からない為、早急な家の修復があればと毎日思うのと街も道路もあくまで補助補修の為、地震で弱まった地盤は次の大地震に耐えられるのか、耐えられない街は命に繋がる為、早めの復興が出来るようにと毎日のように考えています。

- このまま奥能登にいるか、家を売って市外にでるか、ずっと悩んでいます。
- これからの若い世代への支援が足りない
- とにかく 忙しく 生活におわれている 建物や生活になやみがありまくり
- まだまだ道路状況も悪く復興までにごく時間がかかっているという印象 業者の人達はたくさんきてくれて頑張ってくれているがまだまだ追いついていなく、通勤、通学の時も雪がふると地面の凸凹で不安な場所が多々ある
- 安心して住める街にしてほしい。道、ライフライン等インフラの整備と雇用の確保、学べる環境整備。
- 一年たって、まだまだ先が見えない状況でゆっくり休む事も難しいが、やらなければいけない事は増えて行く状況で正直、疲れたと強く感じている。
- 一部損壊だったが、給付が少なかった。リフォームするにも足りない。もう少し給付してほしい。
- 引越しをしたいが、アパートの空きがない
- 仮設住宅がたくさん建って、公園がなくなり、遊ぶ場所がない。人口が増えてマナーが悪い人が多く見られる為、子供を1人で登校させるのが怖い。早く地震前の穏やかな環境に戻ってほしい
- 家が壊れないか心配、早く治して欲しい。
- 家が早く完成してほしい
- 家が半壊なので再建したいがなかなか時間がない
- 家を解体してまた建てて住みたいが金銭的に見通しが立たず不安
- 環境の変化に対する子供達の心の不安定が暴言、暴力につながっているケースをよく見かけます。高学年の子達がそのような状態なので、気持ちを言語化するのがまだ難しい低学年では、「ねえねえ混ぜて～」と言えば良いところを急に近くへ行き叩いてみたり、タックルしたり… 地域で見てる私が目撃するほどです。親の立場ではまずは子供の気持ちを言語化できるように務めています。その上で気持ちを受け止め、話をしています。
- 頑張っているけどなかなかですね…
- 去年半年間避難所で死のうと思ひ詰めるほどいっぱいいっぱいになる程の思い…ここに居続けるの母の私は辛いですが… 今後の住処が検討中なので…今の地域から離れる事も考えたいが…子供が転校だけは…と思っているため離れられず困っています。
- 狭い仮設住宅での生活は大変です
- 経済的に困っている。
- 経済的不安
- 建物の解体が進み、街の風景が変わりさみしい。解体した家の人も悲しいと思う。
- 今は支援をうけアパートで暮らしているが、退去の期限がきた時、その後の住まいがどうなるのか心配。
- 仕事では社内の諦めやすい雰囲気強く感じる
- 仕事や家族のことで悩むことが多い
- 子どもたちが元気いっぱい遊べる環境を増やしてもらいたいです。
- 子育てしやすいと思いここに住んだが地震にあった。移住者への割引や給与等の手当はあるが、もともと住民にはなく不満が膨らむ。地域の魅力、暮らしやすさは失われた。支援してくださる方々にはとても感謝している。しかし、ここにも良いことが全くなくなってしまった。子どもの義務教育が終わったら離れようと思う。
- 子供が、本当に自由に、遊べる場所がほしい
- 子供の友達が飲食店をやっていた家族が県外に引っ越すことになった。復興が遅いのもあり、人口流出がこ

れから加速していくのが心配

- 私はこの自然豊かな場所で海も山も田んぼも楽しんでいました。今子供には地元の自然で遊ばせることができないのが悔しいです。
- 七尾市の子供への手当てが少なすぎる
- 周りの人は、誰もいなくなり、楽しい事もあんまり考えられない。子供もいるが、遊びにつれてくともお店も病院もなく、将来住み続けたいとは正直全く思わない。
- 私たち家族は色々な方に親切にして頂き、沢山の支援を受け、辛い時期を乗り越えることができました。4月には築3年の一軒家にも移ることができ、精神衛生も保たれています。支援して下さった皆様にどのようにお礼を伝えればよいか分からずにいます。皆様が与えて下さった温かい気持ちに救われたことを伝えて頂ければ幸いです。今後のこととなりますと、高齢化率が約45%の町ですので、お仕事を引退された方々の健康と生活再建が心配でなりません。仮設住宅から退去できる方がどれほどおられるのでしょうか。飲酒や暴力、認知症の進行など、様々な課題が生じてきています。どの世代の方も安心して暮らし続けられるような町づくりが、子どもたちの未来にもつながると思います。どのように町づくりをしていけばよいか、マネジメントして頂けるとありがたいです。
- 少しずつではあるが復旧復興は確実に進んでいる。施されることが当たり前前の状態となっており、自立することを忘れている市民も多くいるように感じる。発災から時間が経てば経つほど人間の本質が表れてきており、子ども達にはそのような環境で成長して欲しくない。
- 少しずつ周りの家屋が壊されていき、淋しい風景になってきました。1年たった今でも私たちの家はまだ傾いた状態で、また地震がくるんじゃないかという不安でなかなか先に進めませんでした。35年以上住んでいた地域でまた住むことに決め、今現在、ようやく業者に修復する為の見積もりを出してもらってる段階です。テレビでは8割復興しているとうたっていますが、まだまだ道も学校の体育館も市民体育館も習い事をする場もまだ修復されてません。
- 震災後、解体が進み町の景色は大きく変わりました。そしておそらく復興を遂げることなく、衰退の一途をたどるであろう地域で子供たちが、今後も今までどおり心豊かに成長できるのか不安と疑問しかありません。
- 政府・県・市の動きが遅くて悪い もっと給付金を出してほしい 更に防災知識を高めて行く必要があると感じている
- 早く家などの壊れているところを直してほしい。昨年7月31日完成予定がすでに半年以上経過している。
- 地域の未来の姿についてイメージできない。公費解体が進んでいるが、その後 その土地がそのまま更地となり、地域が更地だらけになる不安がある。
- 転出する若い世代が多いので将来が心配
- 道路の小さい陥没などあちこちに新たに出来ているので、運転していても地盤が不安定なのかと不安になる(最近の陥没事故を見て)。公共施設の割れやトンネルのひび割れなど、一応の点検はしてあると思うが、修繕までの間もこまめに点検してほしい。
- 道路環境が悪すぎる 農道のため未だに直してもらえない 能登島では通勤通学の道路である
- 復興とは長い道のりである。少子高齢化なのに、さらに過疎化が進み人口減少。将来子ども達が住み続けたいと思えるインフラ設備が保持されるか不安である。
- 復興の遅さ。子どもが安心して遊べる場所のなさ。どこも危険な場所のまま。何もなならない。何も無い。
- 歩道が危ない。自転車、自動車がパンクする。最低限安全な暮らしを子どもたちにさせてあげたい。スーパーが夏まで1店舗しかなく栄養が偏った。子どもを大事にして欲しい。我慢ばかりさせずに。普通に子どもの笑顔が見たい。

- 様々な方々のご支援にて今日があります。震災を機に金沢市に来ましたが皆、優しくありがたいです
- 揺れたり音に敏感になっている。夜は子供と一緒に寝ないと不安がる。自然災害への不安が続いている。
- 和倉温泉を早く復興させて欲しい。年寄りや子供が住みやすい町にして欲しい。

IV アンケート結果を受けて

今回が 2 回目のアンケート調査である。昨年は震災直後ということもあり、物資の支援や住む場所といった、ともかく生存への支援の声が多かったが、一年たった今回は、これからどう暮らすのかといった悩みの声が多かったように思う。

子育て環境にも目が向き始め、ただの訴えでなく現実を見据えどうしたらという切ない声が襟を正させてくれる。

保護者も子供も、「住んできた能登は好きだけど、安心して遊べる場がなくなった」「学びたいが、先生も、習い事の場所もなくなった」「友達が転校し子供がどんどんいなくなる」「気軽に服などを買う店もなくなった」等の声から、この地で子育てすることが正しいのかと悩む回答が本当に多かった。

理想と現実、何をもって復興？ の間で揺れている今の状況を改めて感じさせられた。

今回は子供にもいくつかの質問をさせていただいたのだが、地元を愛する気持ちと同時に自分のこれからの進路に不安を感じる回答も多く、私たち大人に何ができるのか問われている気がした。

又道路がガタガタといった、いつも見る風景への不安の声も多く、荒れた環境が子供達の心に与える影響が多いのだと考えさせられた。次の地震が怖いという声も多く、毎日不安のなかで生活していると思うと、胸が締め付けられる。

本当の気持ちはやはりそこで住んでいないとわからないんだなと思った。

そんな私たちがこの声を受け止めて、何ができるのだろうか。

地域における学びの格差をなくし、誰もが安全のなか、安心して暮らせる仕組みづくり。

笑顔の裏にある、子供達の不安、心配を見逃さず、誇りを持って学んでいける環境づくり。

どれ一つとっても容易ではないことは分かりつつ、できることからできる人がやるしかない。

まずこの声をきちんと周りに伝えようと思う。そして聞いた人が人ごとでなく、自分ごととして、能登の子供達のことを考えてくれるよう、私たちもできることをしていきたい。

忙しい中声をあげてくれた方々にきちんと向き合っていきたいと思う。

【NPO 法人ワンネススクール 代表 森要作】

昨年に引き続き 2 回目の調査を行うなかで、発災後におとなが常駐する子どもの居場所を利用した割合が 30.6%であったことは衝撃であった。国際的にはチャイルド・フレンドリー・スペース (Child Friendly Spaces: CFS) といわれる子どもの居場所づくりは、重要な支援内容の一つである。しかし、本調査では、多くの子どもたちやその保護者に CFS の支援が提供されていない課題が浮き彫りとなった。子育て支援として不足していることを尋ねた自由記述ではそのことがより詳細に書かれていた。実施数だけでなく、アクセスや情報の問題など理由はさまざまであろうが、しっかりとこの課題に対応していかなければならない。

また、子ども調査を見ると、生活満足度が低い子どもや楽しくあそぶことができていない子ども、心配な気持ちが高い子ども、ウキウキする気持ちになれない子どもなど、いま現在も困り感を抱えている可能性がある子どもの回答が読み取れる。だが一方で、子どもたちの多くは、自分の将来や進路と同様に、…いやそれ以上に、地域の将来や自然環境を心配し、複雑な気持ちを抱えているようであった。このことは、子どもたちの具体的な声としても表れていた。能登から引越してしまった友達への複雑な思い、戻りたくても戻れないなかで物理的に離れていくことを避けられない不安さ、やりたいことをやるためにはいずれ金沢へ行かなければならないことへの迷いなど、子どもたちはこの一年間の中でいろいろな想いを抱いてきたのだと感じる。このような気持ちの一つ一

つに向き合うことこそ、石川県内で支援する者たちが共有しなければならない子どもの声である。

なお、子どもの居場所づくりや支援の際に忘れがちなのは子どもの「本来の日常」であろう。Q12 では、次のような記述があった。

本買ったリゲーム買ったリDVDを借りれるとこがなくなった。ゲーセンがなくなった。公園、体育館が無くなって友達と遊べるところがない。

子どもたちの日常に潜んでいた雑多なあそびの数々。それは大人からみた理想的なあそび環境ばかりではないはずである。子どもの放課後にあふれていた「日常」は、それを生きていた子どもたちにしかわからないものかもしれない。だからこそ、このような子どもの声に真摯に向き合い、大人の理想的な居場所ばかりにならないような子ども支援を行うことを意識していかなければならない。

今後も継続的に子どもや保護者のニーズを聴き取り、当事者にとって必要な支援が行き届くよう自治体や支援団体へ働きかけていきたい。

【金沢大学 准教授 鈴木瞬】

作成日:2025年3月31日

アンケート結果についてのご意見・お問合せ

特定非営利活動法人 ワンネススクール 代表 森要作

Tel:076-259-5359 E-mail:info@oneness-school.org

金沢大学 人間社会研究域学校教育系 准教授 鈴木瞬

Tel:076-264-5407 E-mail:shun.sz@staff.kanazawa-u.ac.jp